

令和3年度

事業報告書



学校法人 行吉学園

# 目次

I 法人の概要	1
1 基本情報	1
2 建学の精神・教育綱領	1
3 法人の沿革	2
4 学校・学部・学科等の定員と現員（令和3年5月1日現在）	3
5 学生・園児数の推移及び収容定員充足率（過去5年間）	4
6 教職員数の推移（過去5年間）	4
7 役員の概要（令和3年7月1日現在）	5
8 評議員の概要（令和3年7月1日現在）	6
9 理事会・評議員会の開催状況（令和3年度）	7
10 施設等の状況（令和4年3月31日現在）	9
11 法人組織構成図（令和3年4月1日現在）	10
II 事業の概要	12
1 主な教育・研究の概要	12
（1）卒業の認定に関する方針	12
（2）教育課程の編成及び実施に関する方針	12
（3）入学者の受入れに関する方針	12
2 令和3年度事業計画の進捗状況	12
（1）教育に関する目標を達成するための計画	12
（2）研究に関する目標を達成するための計画	15
（3）社会貢献に関する目標を達成するための計画	15
（4）学生の進路に関する目標を達成するための計画	16
（5）学生支援に関する目標を達成するための計画	17
（6）施設・設備に関する目標を達成するための計画	18
（7）入試広報に関する目標を達成するための計画	18
（8）幼稚園に関する目標を達成するための計画	19
（9）組織に関する目標を達成するための計画	19
（10）財政に関する目標を達成するための計画	19
別記（1-2）教育内容に関する目標（各学科・研究科等）を達成するための計画	20
①神戸女子大学	20
②神戸女子大学大学院	23
③神戸女子短期大学	24
3 特記事項	26
（1）卒業生・修了者数の状況	26
（2）国家試験の受験・合格状況	27
（3）学修支援センター等	27
（4）国際交流事業	28
（5）図書館	29
（6）研究	31
（7）古典芸能研究センター	33
（8）学生	33
（9）保健室	36
（10）教職支援	37
（11）就職支援	38
（12）入試広報	39
（13）収益的事業	41
（14）幼稚園	41
（15）新型コロナウイルス感染症に対する主な取組み	43

# 目 次

---

Ⅲ 財務の概要	46
1 決算の概要	46
（1）貸借対照表関係	46
（2）資金収支計算書関係	46
（3）事業活動収支計算書関係	48
2 その他	49
（1）有価証券の状況	49
（2）借入金の状況	49
（3）学校債の状況	49
（4）寄付金の状況	49
（5）補助金の状況	50
（6）収益事業の状況	50
（7）関連当事者との取引の状況	50
（8）学校法人間財務取引	50
3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	50

# I 法人の概要

---

## 1 基本情報

### (1) 法人の名称

がっこうほうじんゆきよしがくえん  
学校法人行吉学園

### (2) 主たる事務所

兵庫県神戸市中央区港島中町四丁目7番2号

代表電話番号 078 (303) 4700

ホームページ <https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>

## 2 建学の精神・教育綱領

### 建学の精神

本学園の教育は 民主的で文化的な国家を建設して 世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある そのためには 人格の完成をめざし 平和的な国家および社会の形成者として 真理と正義を愛し 個人の価値をたっとび 勤労と責任を重んじ 自主的精神に充ちた心身ともに 健康な国民の育成に力をつくすにある

### 教育綱領

学術の研究を通して人生社会に対する広い視野と深い洞察とを身につけ 識見高く 心情豊かな女性を育てる

個性の伸長をはかり 社会に貢献しうる人材を育てる

勤労を愛し 義務と責任を重んじ 自律的に行動する態度を養う

宗教的情操を培い 謙虚にして愛情深く よく苦難に耐え 常に信念に生きる女性を育てる

明朗にして礼節あり 健康にして柔軟な心身の持ち主となり よく世代を導きうる女性を育てる

### 3 法人の沿革

昭和 15 年 11 月	神戸新装女学院を設立
” 21 年 9 月	財団法人神戸新装女学院に組織変更
” 25 年 4 月	神戸女子短期大学服装科を設置
” 26 年 2 月	学校法人行吉学園に組織を変更
” 41 年 4 月	神戸女子大学家政学部を設置
” 44 年 4 月	神戸女子大学文学部を設置
” 48 年 4 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を設置
” 59 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻を設置
” 61 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻、英文学専攻、日本史学専攻を設置
” 62 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科教育学専攻を設置
平成元年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学を設置
”	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻及び文学研究科教育学専攻に博士課程を設置
” 3 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻に博士課程を設置
” 4 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科英文学専攻に博士課程を設置
”	法人本部及び神戸女子短期大学を移転
” 5 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻に博士課程を設置
” 7 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻を設置
” 8 年 4 月	神戸女子大学文学部に社会福祉学科を設置
”	神戸女子短期大学に総合生活学科・食物栄養学科を設置
”	神戸女子大学瀬戸短期大学に生活専攻・食物栄養専攻を設置
”	神戸女子短期大学初等教育科を初等教育学科に名称変更
”	神戸新装学院を廃止
” 9 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻に博士課程を設置
” 10 年 6 月	神戸女子短期大学服装科・家政科を廃止
” 11 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学英語科を文化コミュニケーション科に名称変更
” 13 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の募集停止
” 14 年 7 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の廃止認可
” 15 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学生活科の募集停止
”	神戸女子大学学校教育学専攻科の設置
” 16 年 5 月	神戸女子大学瀬戸短期大学の廃止認可
” 18 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康福祉学科、文学部日本語日本文学科、文学部英語英米文学科、文学部神戸国際教養学科を設置
”	神戸女子大学文学部文学科、文学部社会福祉学科の募集停止
”	神戸女子短期大学専攻科保育専攻を設置（平成 23 年 3 月廃止）
” 21 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科を設置、同学部健康福祉学科を社会福祉学科に、神戸女子短期大学初等教育学科を幼児教育学科に名称変更
” 23 年 4 月	社会福祉法人神女きずな会を設立し、神女中山手保育園を開設
” 27 年 4 月	神戸女子大学看護学部看護学科を設置
” 28 年 4 月	神戸女子大学大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
” 30 年 4 月	神戸女子大学文学部神戸国際教養学科を国際教養学科に名称変更
” 31 年 4 月	神戸女子大学大学院看護学研究科看護学専攻を設置
令和 3 年 3 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を廃止
” 3 年 4 月	幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園を設置

4 学校・学部・学科等の定員と現員（令和3年5月1日現在）

（単位：人）

区分	学部・学科等		入学定員	入学者数	収容定員	現員	摘要	
神戸女子大学大学院 (昭和59年4月設置)	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	8	16	12	
			後期	2	1	6	3	
		生活造形学専攻	前期	6	0	12	0	
			後期	2	0	6	0	
		(小計)		18	9	40	15	
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	0	8	0	
			後期	2	0	6	0	
		英文学専攻	前期	4	0	8	0	
			後期	2	0	6	1	
		日本史学専攻	前期	4	2	8	4	
			後期	2	0	6	0	
		教育学専攻	前期	4	0	8	0	
			後期	2	1	6	5	
	(小計)		24	3	56	10		
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻	4	4	8	9		
	看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	前期	8	6	16	19	
			後期	3	5	9	13	
		(小計)		11	11	25	32	
	(合計)			57	27	129	66	
神戸女子大学 (昭和41年4月設置)	家政学部	家政学科	80	91	320	354		
		管理栄養士養成課程	150	139	620	560		
		(小計)	230	230	940	914		
	文学部	日本語日本文学科	60	54	240	246		
		英語英米文学科	60	43	240	247		
		国際教養学科	60	50	180	219	令和3年度定員変更	
		史学科	60	51	240	249		
		教育学科	165	122	660	637		
		(小計)	405	320	1,560	1,598		
	健康福祉学部	社会福祉学科	80	58	320	269		
		健康スポーツ栄養学科	80	53	320	274		
		(小計)	160	111	640	543		
	看護学部	看護学科	90	93	350	353	令和元年度定員変更	
(合計)			885	754	3,490	3,408		
学校教育学専攻科			15	0	15	0		
神戸女子短期大学 (昭和25年4月設置)	幼児教育学科		80	43	180	110		
	総合生活学科		100	68	220	174		
	食物栄養学科		60	54	180	117		
	合計		240	165	580	401		
幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園 (令和3年4月設置)			※52	50	160	155	幼稚園から移行	
総計			1,249	996	4,374	4,030		

\*認定こども園の入学定員欄は5歳児（卒園児）の定員を表す

## 5 学生・園児数の推移及び収容定員充足率

(毎年度5月1日現在：人)

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	
大 学 院	家政学研究科	博士前期	11	11	10	10	12
		博士後期	8	6	7	4	3
	文 学 研 究 科	博士前期	7	6	5	4	4
		博士後期	5	6	6	5	6
	健康栄養学研究科	修士課程	5	7	8	8	9
	看護学研究科	博士前期	—	—	9	15	19
		博士後期	—	—	5	8	13
	合 計	博士前期	23(修士を含む)	24(修士を含む)	32(修士を含む)	37(修士を含む)	44(修士を含む)
		博士後期	13	12	18	17	22
	収容定員充足率		34.6%	34.6%	43.5%	42.9%	51.2%
大 学	家 政 学 部	988	990	981	945	914	
	文 学 部	1,572	1,673	1,716	1,703	1,598	
	健 康 福 祉 学 部	555	564	584	594	543	
	看 護 学 部	266	352	361	357	353	
	合 計	3,381	3,579	3,642	3,599	3,408	
	収容定員充足率		103.1%	105.9%	106.5%	104.0%	97.7%
	学校教育学専攻科		2	2	0	0	0
短期大学	幼 児 教 育 学 科	188	174	159	145	110	
	総 合 生 活 学 科	185	179	193	205	174	
	食 物 栄 養 学 科	189	188	186	151	117	
	合 計	562	541	538	501	401	
	収容定員充足率		80.3%	79.6%	79.1%	73.7%	69.1%
幼稚園 (認定こども園)	合 計	169	159	140	158	155	
	収容定員充足率		84.5%	79.5%	70.0%	79.0%	96.9%

## 6 教職員数の推移 (過去5年間：毎年5月1日現在)

(単位：人)

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
本務教員	神 戸 女 子 大 学	179	181	185	186	182
	神 戸 女 子 短 期 大 学	40	40	38	36	34
	高 倉 台 幼 稚 園	7	7	8	13	13
	合 計	226	228	231	235	229
兼務教員	合 計	301	314	318	326	327
本務職員	法 人 本 部	9	9	8	8	9
	神 戸 女 子 大 学	70	72	68	71	74
	神 戸 女 子 短 期 大 学	13	11	10	10	7
	高 倉 台 幼 稚 園	3	3	3	3	3
	合 計	95	95	89	92	93
兼務職員	合 計	143	142	132	97	122
本務教職員合計		321	323	320	327	322

\*本務教職員(平均年齢)教員 52.9歳・職員 49.1歳、(平均勤続)教員 11.2年、職員 16.8年 [令和3年5月1日現在]

## 7 役員概要（令和3年7月1日現在）

### (1) 理事

[定数：8名 任期：4年]

区分	氏名	常勤・非常勤	就任年月日	主な現職等
理事長	行吉 宜孝	常勤	平成22年6月29日 (平成31年4月1日 理事長就任)	
理事	栗原 伸公	常勤	平成30年6月29日	神戸女子大学長・神戸女子短期大学長
	前田 研史	常勤	平成31年4月1日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
	伊吹 眞澄	常勤	平成30年6月29日	(学) 行吉学園法人本部長
	杉原 基弘	常勤	平成31年4月1日	(学) 行吉学園総務部部長
	今井 修平	非常勤	平成18年4月1日	
	根岸 成直	※非常勤	平成18年6月29日	
	小川 清四郎	※非常勤	平成30年6月29日	

※印：非業務執行理事

### (2) 監事

[定数：3名 任期：4年]

区分	氏名	常勤・非常勤	就任年月日	主な現職等
監事	横田 成樹	非常勤	平成26年6月29日	
	亀井 尚也	非常勤	平成23年5月27日	弁護士
	打越 信男	非常勤	令和3年6月29日	

### (3) 責任免除・責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

#### ア 責任の免除

学校法人行吉学園寄附行為において次のとおり責任の免除等を定めている。

(責任の免除)

**第47条** 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

(責任限度契約)

**第48条** 理事（理事長又はこの法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金30万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

#### イ 責任限定契約

対象役員の氏名	非業務執行理事 根岸 成直 ・ 小川 清四郎 監 事 横田 成樹 ・ 亀井 尚也 ・ 芳木 伸吉 (令和3年6月28日まで) 打越 信男 (令和3年6月29日から)
契約内容の概要	非業務執行理事又は監事がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金30万円と、在職中に学校法人から職務執行の対価として受け、又は受けるべき役員報酬の1年間あたりの額に相当する額として私立学校法施行規則第3条の3に定める方法により算定される額に2を乗じて得た額との、いずれか高い額を限度として、損害賠償責任を負うものとする。ただし、損害額のうち責任限度額を上回る部分については当然に免責するものとする。
契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置	契約の内容として、役員が職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨を定めている。

## ウ 役員賠償責任保険契約

団体契約者	日本私立大学協会	引受保険会社	東京海上日動火災保険株式会社
被保険者	記名法人……………学校法人行吉学園 個人被保険者……………理事、監事		
保険期間	2021年4月1日（午後4時）から2022年4月1日（午後4時）まで		
補償内容	(1) 役員（個人被保険者）……………法律上の損害賠償金、争訟費用等 (2) 記名法人……………法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等		
支払いの対象とならない主な場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被保険者が私的な利益または便宜の供与を違法に得たことに起因する対象事由</li> <li>・被保険者の犯罪行為に起因する対象事由</li> <li>・法令に違反することを被保険者が認識しながら行った行為に起因する対象事由</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>		
総支払限度額	5億円	保険料負担者	学校法人行吉学園

※当該保険契約の内容は、令和2年度第5回理事会（令和3年3月24日）決議に基づくものである。

## 8 評議員の概要（令和3年7月1日現在）

[定数：20名 任期：4年]

氏名	就任年月日	主な現職等
多畑 寿城	平成31年4月1日	(学) 行吉学園学園サポートセンター事務部部长
山根 千弘	令和3年4月1日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
伊吹 眞澄	平成30年6月29日	(学) 行吉学園法人本部部长
杉原 基弘	平成31年4月1日	(学) 行吉学園法人本部総務部部长
廣畑 俊介	平成18年9月8日	(学) 行吉学園法人本部学園企画部部长
山脇 喜子	平成30年6月29日	
羽多 悦子	平成30年6月29日	
市川 清美	平成30年6月29日	
糸井 亜弥	平成18年6月29日	神戸女子大学准教授
吉田 千佳子	平成18年6月29日	
林 利恵子	昭和55年7月4日	
春木 和子	平成16年7月29日	
十一 玲子	平成14年6月29日	神戸女子大学准教授
吉田 幸世	平成18年6月29日	(学) 行吉学園技術職員
今井 修平	平成18年4月1日	
前田 研史	平成31年4月1日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
森野 茂樹	平成18年6月29日	
木村 奈帆子	平成31年4月1日	幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園園長
浅木森 和夫	平成22年6月29日	神戸女子大学教授
柴田 朋彦	令和3年6月5日	神戸女子大学教育後援会会長

## 9 理事会・評議員会の開催状況（令和3年度）

### （1）理事会

回数	開催 年月日	主な協議事項	出席状況 (定数8名)		
			出席	欠席	計
1	令和3年 6月17日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監事候補者の選出について</li> <li>・ 令和2年度事業報告について</li> <li>・ 令和2年度決算について</li> </ul>	8	0	8
2	令和3年 6月17日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神戸女子大学学則の一部改正について</li> <li>・ 神戸女子短期大学学則の一部改正について</li> <li>・ 令和3年度賞与支給率について</li> <li>・ 退任役員への功労金の支給について</li> <li>・ 監事の選任について（報告）</li> <li>・ 令和3年度入学試験の結果及び令和4年度入学試験等の概要について（報告）</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染者の発生状況について（報告）</li> </ul>	8	0	8
3	令和3年 10月4日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校法人行吉学園寄附行為の一部変更について</li> <li>・ 神戸女子大学学則の一部改正について</li> <li>・ 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の定員増について               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の定員等の変更について</li> <li>(2) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園運営規程の一部改正について</li> </ul> </li> <li>・ 令和4年度授業改革と諸課題への対応について</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染者の発生状況について（報告）</li> <li>・ 新型コロナワクチンの大学拠点接種（職域接種）について（報告）</li> <li>・ 大学院の共学化について（報告）</li> </ul>	8	0	8
4	令和4年 3月28日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法人職員である評議員の推薦について</li> </ul>	8	0	8
5	令和4年 3月28日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事会が推薦し、評議員会が選任した評議員について（報告）</li> <li>・ 評議員会が選任した理事について（報告）</li> <li>・ 令和3年度補正予算について</li> <li>・ 令和4年度事業計画について</li> <li>・ 令和4年度予算について</li> <li>・ 学園諸規程の改正等について               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学則の一部改正                   <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 神戸女子大学学則の一部改正</li> <li>イ 神戸女子大学大学院学則の一部改正</li> <li>ウ 神戸女子短期大学学則の一部改正</li> </ul> </li> <li>(2) 神戸女子大学・神戸女子短期大学教学組織規程の一部改正</li> <li>(3) 事務組織規程の一部改正等                   <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 行吉学園事務組織規程の一部改正</li> <li>イ 神戸女子大学・神戸女子短期大学事務組織規程の制定</li> </ul> </li> <li>(4) 行吉学園特任教員規程の一部改正</li> <li>(5) 学校法人行吉学園奨学金規程の制定</li> <li>(6) 行吉学園出版助成費規程の一部改正</li> </ul> </li> <li>・ 神戸女子大学学校教育学専攻科の廃止について</li> <li>・ 役員賠償責任保険契約について</li> <li>・ 令和4年度入学試験の結果について（報告）</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染者の発生状況について（報告）</li> <li>・ 教職員の異動（退職者・採用予定者）について（報告）</li> <li>・ 学園諸規程の改正等について（報告）</li> </ul>	8	0	8

(2) 評議員会

回数	開催 年月日	主な協議事項	出席状況 (定数20名)		
			出席	欠席	計
1	令和3年 6月17日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監事候補者の同意について</li> <li>・ 神戸女子大学学則の一部改正について</li> <li>・ 神戸女子短期大学学則の一部改正について</li> <li>・ 令和3年度賞与支給率について</li> <li>・ 令和2年度事業報告について(報告)</li> <li>・ 令和2年度決算について(報告)</li> <li>・ 令和3年度入学試験の結果及び令和4年度入学試験等の概要について(報告)</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染者の発生状況について(報告)</li> </ul>	18	2	20
2	令和3年 10月4日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校法人行吉学園寄附行為の一部変更について</li> <li>・ 神戸女子大学学則の一部改正について</li> <li>・ 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の定員増について               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の定員等の変更について</li> <li>(2) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園運営規程の一部改正について</li> </ul> </li> <li>・ 令和4年度授業改革と諸課題への対応について</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染者の発生状況について(報告)</li> <li>・ 新型コロナワクチンの大学拠点接種(職域接種)について(報告)</li> <li>・ 大学院の共学化について(報告)</li> </ul>	18	2	20
3	令和4年 3月28日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事会から推薦された評議員の選任について</li> <li>・ 評議員である理事の選任について</li> <li>・ 令和3年度補正予算について</li> <li>・ 令和4年度事業計画について</li> <li>・ 令和4年度予算について</li> <li>・ 学園諸規程の改正等について               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学則の一部改正                   <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 神戸女子大学学則の一部改正</li> <li>イ 神戸女子大学大学院学則の一部改正</li> <li>ウ 神戸女子短期大学学則の一部改正</li> </ul> </li> <li>(2) 神戸女子大学・神戸女子短期大学教学組織規程の一部改正</li> <li>(3) 事務組織規程の一部改正等                   <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 行吉学園事務組織規程の一部改正</li> <li>イ 神戸女子大学・神戸女子短期大学事務組織規程の制定</li> </ul> </li> <li>(4) 行吉学園特任教員規程の一部改正</li> <li>(5) 学校法人行吉学園奨学金規程の制定</li> <li>(6) 行吉学園出版助成費規程の一部改正</li> </ul> </li> <li>・ 神戸女子大学学校教育学専攻科の廃止について</li> <li>・ 役員賠償責任保険契約について</li> <li>・ 令和4年度入学試験の結果について(報告)</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染者の発生状況について(報告)</li> <li>・ 教職員の異動(退職者・採用予定者)について(報告)</li> <li>・ 学園諸規程の改正等について(報告)</li> </ul>	17	3	20

## 10 施設等の状況（令和4年3月31日現在）

### （1）土地

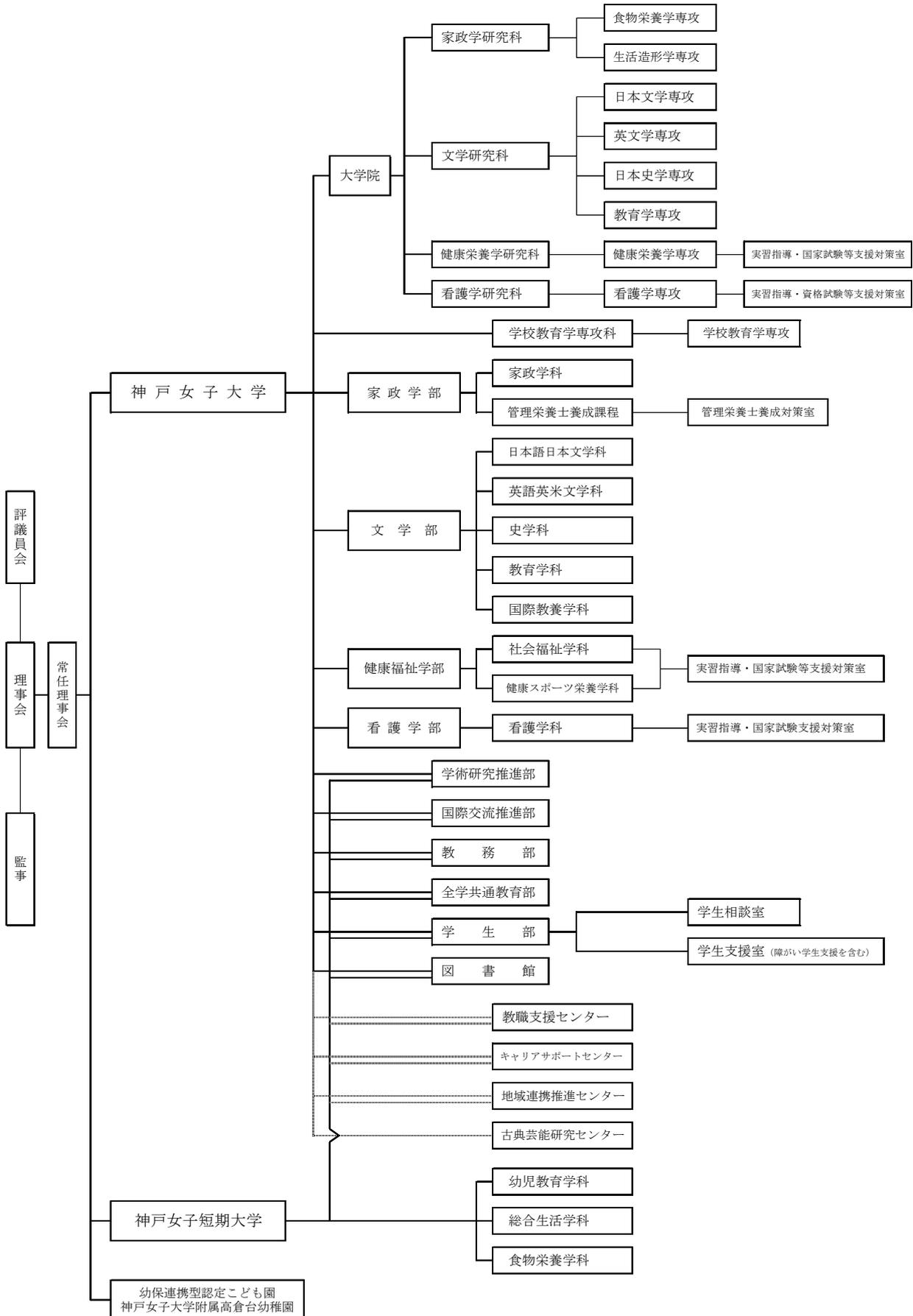
区分	所在地	面積（㎡）	摘要
須磨キャンパス	兵庫県神戸市須磨区	133,389.12	神戸女子大学専用
PIキャンパス	兵庫県神戸市中央区	24,524.84	神戸女子短期大学専用
三宮キャンパス	兵庫県神戸市中央区	4,931.00	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
認定こども園 (神戸女子大学附属高倉台幼稚園)	兵庫県神戸市須磨区	2,566.58	認定こども園専用
小計		165,411.54	
寄宿舍（行幸寮・天神寮）	兵庫県神戸市須磨区	3,128.13	神戸女子大学専用
セミナーハウス	米国ハワイ州ホノルル	683.65	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎	兵庫県神戸市須磨区	382.34	
合計		169,605.66	

### （2）建物

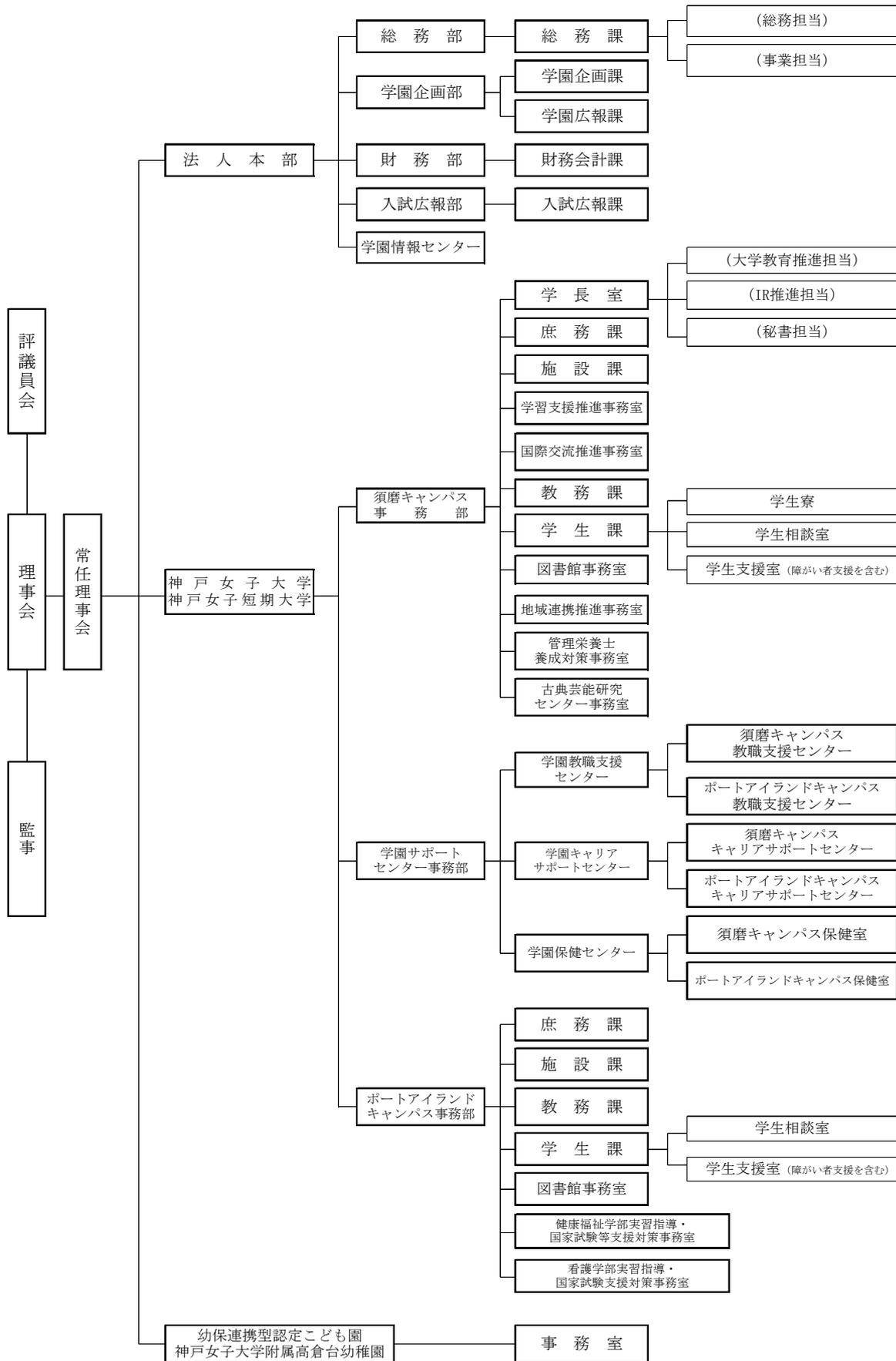
区分	面積（㎡）	摘要	
須磨キャンパス (兵庫県神戸市須磨区)	校舎	26,631.74	神戸女子大学専用
	体育館	3,460.50	
	図書館	6,081.45	
	実験室	57.60	
	守衛室	68.76	
	クラブ室	986.85	
	食堂	2,115.98	
	会館	246.80	
小計	39,649.68		
PIキャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校舎	10,855.36	神戸女子大学専用
		23,954.49	神戸女子短期大学専用
	守衛室	47.93	
	体育館	2,334.04	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
小計	37,191.82		
三宮キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校舎（体育館を含む）	7,085.46	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
認定こども園 (兵庫県神戸市須磨区)	校舎	1,398.61	認定こども園専用
寄宿舍（行幸寮・天神寮） (兵庫県神戸市須磨区)		4,412.56	神戸女子大学専用
セミナーハウス (米国ハワイ州ホノルル)		1,074.67	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎 (兵庫県神戸市須磨区)		436.64	
合計	91,249.44		

1.1 法人組織構成図（令和3年4月1日現在）

(1) 教学組織



(2) 事務組織



## II 事業の概要

---

### 1 主な教育・研究の概要

#### (1) 卒業の認定に関する方針

本学は、建学の精神に基づき、自立心に富み、対話力と創造性に優れ、人類社会の発展に貢献する女性を育成することを教育目標とする。これら自立心、対話力、創造性を十分に備える者として、知識・技能、能力及び資質が各学部・学科及び課程の定める基準に達しており、かつ所定の卒業要件を満たした者に、学位を授与する。

#### (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程が定める人材育成・教育研究上の目的を達成するための教育課程を編成し、自立心、対話力、創造性を培う教育内容及び方法を実施する。

#### (3) 入学者の受入れに関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程の人材育成・教育研究上の目的に定める人材を育成するために、多様な能力を身に付けた学生を求める。

※各学科・課程、研究科ごとの方針は本学のホームページを参照ください。

### 2 令和3年度事業計画の進捗状況

中期目標並びに中期計画を達成していくために、令和3年度に取り組むべき施策の中から主な施策について取りまとめた令和3年度事業計画の進捗状況は以下のとおりである。

#### (1) 教育に関する目標を達成するための計画

##### 【I-1】自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

求められる学生の学修成果の学校種による違いに留意しつつ、大学・短期大学それぞれで以下の通り計画を進めた。

##### ① 大学

- ・計画通り到達度調査を実施し、2020年度以前の結果と比較をしつつ検証を行った。コロナ禍の影響に対処すべく、同時期に実施した卒業生調査の結果も踏まえながら検討を行い、各種改善施策を展開することとした。

- ・3つのポリシーにより即した検証を行うとともに、学生指導の際に形成的な評価を行って学修成果を高めることを目的として、学部の学位プログラムごとにルーブリックを用いた卒業研究等の評価指標を開発し、2022年度から運用することとした。
- ・卒業生アンケートの結果、自立心・対話力・創造性が象徴する能力群の「社会での必要度」については、5段階評価で平均4.5以上との回答が得られ、時代及び社会が求める能力と乖離がないことが確認された。  
また、今後詳細な検証を行う予定としているが、現時点では集計結果を学内で共有するに留まっているにも関わらず、いくつかの部局で結果を踏まえた自発的な問題解決の動きが起こっており、想定以上の成果が得られた。

## ② 短期大学

- ・到達度調査について、大学と同じ項目で実施しはじめ3年目となる。2年次生は、1年次（昨年）と比較するため、調査項目は昨年と同じとし、1年次生については、調査項目を短期大学の学生により合ったものとするため、一部修正を行って実施した。さらに今年度は効率化を図るために、manabaより到達度調査を行った。
- ・2年次生については、昨年の1年次と比較すると自立心・対話力・創造性が象徴する能力である「表現力」について、5段階の自己評価で5及び4（高度に身についている）と答えた学生の割合が1年次に28.9%だったのに対し、2年次では48%となり、19.1%上昇したという結果が得られ、短期大学での学修成果が出ていることが確認された。

## 【I-2】教育内容に関する目標(各学科、研究科等)を達成するための計画

- ・各学科、各研究科等の計画は別記のとおり

## 【I-3】教育内容に関する目標を達成するための計画

- ・前年度、インターシップの開講時期の検討を行い、従来の3回生前期から幅を広げ、令和3年度からは2回生後期-3回生前期とした。その運用状況(履修者数)は、2回生後期は8名の履修者数であった。また、3回生前期に立ち上げた新たな職業訓練科目としての「ホスピタリティ・マネジメント」の履修者数は70名であった。
- ・「学生が全員身に付けておくべき能力に関する指標開発」を目指して「英語I-1」および「英語I-2」の授業を担当した教員にアンケートを行った。その結果、能力別クラス編成の実効性や学習効果に課題があることが分かった。
- ・本年度より須磨及びポートアイランド(以下P I)両キャンパスにおいて専任英語教員を配置した。これにより教養科目の英語教育が統括され円滑な運営が行われるようになった。

#### 【I-4】教育課程に関する目標を達成するための計画

- ・CAP 制厳格実施を行うため、全学科に対して CAP 制完全実施についての調査を行い開講期変更などの見直しを実施した。同時にカリキュラムのスリム化を推進した。
- ・他大学 GPA(Grade Point Average)活用事例一覧を作成し、GPA 値によって履修制限をかける科目の検討を行った。また、学科主任に全学生 GPA 一覧を配付し GPA 値情報の活用を進めた。
- ・学科間 GPA 値の平準化を図るために「神戸女子大学・神戸女子短期大学における成績評価の平準化への指針」を作成した。
- ・総合生活学科のフードスペシャリスト受験資格を廃止し科目削減を行った。幼児教育学科においては、ディプロマポリシー(DP)に基づく体系的なカリキュラム整備を行い、認定ベビーシッターの資格取得認定校の申請を行った。

#### 【I-5】教育方法に関する目標を達成するための計画

- ・昨年度同様に WEB 方式による授業アンケートを実施した。回答率については大学と短大で差がみられるため、実施手順や学生への周知等について改善の余地がある。  
(大学:前期 47.8%、後期 36.7% 短大:前期 83.3%、後期 73.0%)  
また今後、回答率の改善とあわせて集計結果の分析も行う。
- ・令和 4 年度から始まる授業改革を見据え、「授業公開型研修」「FD 研修会」を企画・実施した。
  - [授業公開型研修] は遠隔授業の好事例共有を目的に分野が異なる教員 4 名の授業動画を manaba にて配信した。(6 月中旬~8 月 31 日)
  - [FD 研修会] は授業改革への教員の取り組みを促進するため、学内教員を講師として異なるテーマでの研修会を計 4 回企画した。すべて Zoom による双方向型で開催し、研修内容の再確認や欠席者向けに manaba にて動画を配信した。
- ・Kiss システム表示項目について検討を行い、現状で十分との結論に至った。manaba の機能改善として動画配信システムを継続利用できるよう契約を更新した。Wi-Fi 環境については、機器を最新のものへ更新した。また、貸出用 Wi-Fi 機器を設置して学生が随時利用できるようにした。

#### 【I-6】国際化に関する目標を達成するための計画

- ・留学準備授業においてオンラインを活用して交流のある大学とのオンライン語学学習・文化学習などを実施し、プログラム内容を充実させた。バーレーンの女子大学とポーランドのアダム・ミツケビッチ大学とのミニ COIL 形式(国際オンライン協働学習)の授業を実施した。
- ・前年度実施した英語・日本語・グローバル・カフェに加え、新たに朝鮮語のカフェを実施した。更に令和 3 年より「世界を知ろうカフェ」を実施し、通常では訪問することができない国や地域(今回はシリアとネパール)の方をお招きしお話していただく

た。グローバル・カフェ参加者数は延べ715名で、短期大学及び大学全学部の学生が参加した。英語圏のグローバル・カフェ参加者の殆どの英語力アップに繋がった。

- ・12月7日に「ポストコロナにおける国際交流セミナー」を実施した。日米友好基金所長のPaige Cottingham-Streater氏及び関西大学の池田教授をお招きし、オンラインで開催した。学生、教員、在大阪・神戸米国領事館、オーストラリア、アメリカ、タイの協定大学関係者及び国際交流機関の聴衆を含めて90名ほどが参加した。
- ・令和3年4月、学生及び保証人対象にオンライン説明会（留学経験のある上級生の体験談など）を実施した。参加人数は約90名であった。

## (2) 研究に関する目標を達成するための計画

### 【Ⅱ－1】研究業績に関する目標を達成するための計画

- ・社会貢献分野とも連携しつつ、大学・短大双方に関わる学外研究費情報の収集・周知に努めた。

### 【Ⅱ－2】学生の研究に関する目標を達成するための計画

- ・コロナ禍の影響で大規模な企画については中止となったが、小規模な研究報告会などは感染対策を十分に行ったうえで開催することが出来た。また、学会がオンライン開催となった結果、むしろ参加し易くなったとの意見もあった。
- ・日本語日本文学科では、優秀な卒業論文を選出し「卒業論文梗概集抄」を発行し顕彰した。また『神女大國文』第33号には、令和2年度卒業生より投稿された卒業論文を基にした論文を掲載した。
- ・国際教養学科では、令和4年度より開始する新カリキュラムの「国際教養学入門」において学科教員の研究を紹介することとした。また、進路指導に際して、国際関係関連大学院を紹介した。
- ・史学科では、12月2日修士論文中間発表会を実施した。学科教員7名の他に他学部教員1名、大学院生4名、学部生2名の参加があった。

## (3) 社会貢献に関する目標を達成するための計画

### 【Ⅲ－1】社会貢献に関する目標を達成するための計画

- ・地域連携推進センターでは、コロナ禍で学生を動員するような大きなイベントは中止となった。その中で300名弱の学生にボランティア活動に参加する機会を提供した。また、地域連携推進事務室の声掛けに応じた有志学生の団体が、中央区北野を盛り上げるイベント「北野ハイカラウォーキング」を自主的に開催し大きな反響を得た。
- ・全教員の地域貢献活動の情報蓄積を行った。また学生への案内システムとしてSNS・LINEを活用し効果的な周知を実現した。
- ・短大食物栄養学科、幼児教育学科では感染防止対策をとって以下の活動を行った。
  - 「神戸市社会福祉協議会こべっこランド主催の食育教室」「食育教室『子どものヘルシーおやつづくり』」(R3/11)

- 神戸市立義務教育学校港島学園 5 年生対象の食育調理オンライン実習(R4/2)
- NPO 法人神戸オリーブ園と提携し、オリーブを使った健康講座と料理教室のオンライン開催(R4/2)
- 神戸女子短期大学と神女中山手保育園の共催によるきずな DAY の遠隔開催(R4/1)
- 市立尼崎高等学校の授業参観、ゼミ生の学修成果発表、ワークショップの体験(R3/12)

#### (4) 学生の進路に関する目標を達成するための計画

##### 【IV-1】 進路支援に関する目標を達成するための計画

- ・保証人への情報提供としてオンデマンドでの WEB 配信に加え、コロナ特設ページからキャリアサポートセンターの活動について定期的に配信した。
- ・S-NAV I による令和3年3月卒業生の「進路決定満足度調査」を実施した。回答者数は837名で、進路決定先に「とても満足している」「満足している」と回答した割合は総計84.9%(大学生/83.3%、短大生/91.1%)であり、2年連続で高水準となった。

##### 【IV-2】 専門就職に関する目標を達成するための計画

- ・キャリアサポートセンターでは、学生が関心を持っている業界別でオンライン・セミナーを実施した。WEB 開催ということで離れたキャンパスからでもセミナーに参加することができた。両キャンパスで16の企業を招致し、延べ848名の学生が参加した。主な企業は以下のとおりである。

三井住友銀行、三井倉庫、日本通運、グリコマニファクチャリングジャパン、日本ハム食品、スギ薬局など。

- ・教職支援センターでは、教育学科2回生の必修「学校インターンシップ」について神戸市内の小学校9校で76名、神戸市内の幼稚園5園で73名の学生受け入れをしてもらった。選択の「学校インターンシップⅡ」についても説明会を実施し、希望者の申請業務を行った。
- ・教職支援センターでは、前年同様教員採用合格者が多かった8つの自治体(香川県、兵庫県、徳島県、岡山県、鳥取県、愛媛県、神戸市、岡山市)の教育委員会を訪問し推薦枠の拡充依頼や情報交換を行った。また、「神戸市教員育成協議会」に加えて、「兵庫県教員等の資質向上に関する協議会」にも令和3年度より機関加盟することになった。

##### 【IV-3】 優良企業就職に関する目標を達成するための計画

- ・「企業との課題解決型教育(PBL/Project Based Learning)に関わる共同活動の協定書」を㈱ワークアカデミーと11月に締結した。対象の企業は「近鉄不動産㈱」で「ハルカス展望台のプロモーション活動」が主な活動内容である。
- ・オンデマンドとWEB ライブを組み合わせたSPI 講座を開講した。また公務員試験対策講座は69名の学生が受講した。

- ・資格サポートオフィス開催の夏期講座の受講者数は87名であり、前年度に比べて56名の大幅増となった。一方、IT系の講座受講生数は75名で昨年より2名減少した。
- ・2月に学内企業説明会を実施し、須磨とP I 両キャンパス合わせて270社を招いた。参加学生数は延べで6,500名であった。

#### 【IV-4】 公務員就職に関する目標を達成するための計画

- ・公務員に関してガイダンスを合計12回、フォーラム1回をオンラインで実施した。

#### 【IV-5】 Uターン就職に関する目標を達成するための計画

- ・須磨とP I 両キャンパス合同でオンライン説明会を7回開催した。  
参加者は合計で127名であった。(5/18 福井県インターンシップ学内説明会、6/16・6/21 Uターンミニガイダンス、11/4 広島県就職学内説明会、12/9 徳島県個別就職相談会、1/20 学内Uターンセミナー、3/9 Uターン就職セミナー)
- ・自治体主催の地方企業と大学関係者との情報交換会がリモート形式に変わってきている。そのため、対面形式に比べると情報交換できる会社数が少なくなった。  
情報交換の実施実績56社(石川県企業/14社、高知県企業/9社、但馬エリア企業/9社、鳥取県企業/9社、岡山県企業/12社)
- ・過去4カ年の卒業生(東京・兵庫・大阪・京都出身者除く)の就職希望地、勤務地のデータ集計をおこないUターン希望者就職率を算出した結果、希望者94名中68名(72.3%)の学生がUターン就職を果たしていることが分かった。

#### (5) 学生支援に関する目標を達成するための計画

##### 【V-1】 学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

- ・新型コロナ感染拡大以前と令和3年度では学生生活調査の自由記述の主要3項目が変化していることが分かった。結果を踏まえて具体的対応を協議し、次年度計画に反映させた。  
新型コロナ感染拡大以前/①スクールバス(無料・格安) ②個人ロッカー ③ATM  
新型コロナ禍現在/①遠隔授業と対面授業の諸問題 ②授業料・設備費への要望  
③レジュメ等の印刷費用
- ・上級生によるピアサポートとして、前年度と同様にZoomの新入生向けオリエンテーションに上級生が参加した。
- ・学園祭をZoomで開催し学友会・クラブ活動勧誘の機会を設けた。須磨キャンパス170名・P I キャンパス70名が参加した。
- ・ポートアイランド4大学連携事業「4大学国際交流ツアー」に18名(大学16名・短大1名・教員1名)、同事業「P I 4大学マラソン」に2グループ/6名が参加し、片方のグループが優勝した。

- ・須磨キャンパスでは配慮を要する学生が3名入学したが、各学科・クラス担任で十分な対応を検討し、教務課と学生課との連携もあり、授業や生活面で特に支障や問題はなく順調に学生生活が実現している。
- ・P Iキャンパスでは「障がい学生支援に関するガイドライン」に従って「障がい学生支援調整会議」を開催し、申請者に対する支援内容を関係諸機関と話し合い、具体的支援方法を合議した。

#### 【V-2】 経済的支援に関する目標を達成するための計画

- ・学園全体で自治体のコロナ支援対応支援金8件、奨学金返還支援事業7件をとりまとめKISS配信、掲示にて周知を図った。また、国の修学支援制度について関係社会福祉協議会、保育協会等より情報収集を図り、必要に応じて学生への周知及び調整業務を行った。
- ・学生への保育士修学支援制度の周知を、紙媒体の掲示だけでなくKISSによる配信で行った。結果、保育士修学支援制度推薦2件、介護福祉士等18件、保育士7件に関する申込があり、新規採用者数は介護福祉士等18名、保育士4名となった。また、看護師についても、希望者への情報提供に努め、鳥取県修学資金貸付制度に1名採用された。

#### (6) 施設・設備に関する目標を達成するための計画

##### 【VI-1】 施設・設備に関する目標を達成するための計画

- ・前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策としてキャンパス内の消毒除菌や飛沫防止パネル・消毒液の設置などの効果的な感染予防対策を継続した。
- ・須磨キャンパスでは、室内環境学を学ぶ学生から提案がありA館ラウンジの什器備品の配置を変更し、利用した学生からアンケートを取り、結果を集約し令和4年度のラウンジ改修計画を具体化した。
- ・須磨キャンパスでは、本学卒業生の彫刻作品の記念碑看板を設置した。P Iキャンパスでは、C館の外壁及び屋上防水を完了した。また、A・B・C・D館廊下照明のLED化及び人感センサー化を行うことで省エネを推進した。

#### (7) 入試広報に関する目標を達成するための計画

##### 【VII-1】 入試広報に関する目標を達成するための計画

- ・学科の取り組みや入試のポイント等の資料を纏め高校に配布した。
- ・キャリアサポートセンターと連携し、収集した情報を大学案内等の広報誌に記載した。
- ・教職支援センターや国家試験等支援対策事務室の各種支援体制について取り纏め高等学校へ情報発信を行った。
- ・オフィシャルHPの学科部分のリニューアルを完了した。今後も広報戦略に合わせてHPの充実を図っていく。

(8) 幼稚園に関する目標を達成するための計画

【Ⅷ－1】 幼稚園に関する目標を達成するための計画

- ・令和3年4月認定こども園を開設し、2号・3号認定児を含んだ園児数167名で運営を行った。今後も定員増化や園児数増加に向け、積極的に地域へアピールしていく。
- ・令和4年度からの0歳児を含む定員増を神戸市と協議した。神戸市への認可申請変更届、確認変更申請を行い、あわせて教員確保も行った。
- ・預かり保育は2号・3号認定児30名と合わせて行った。新型コロナウイルス感染防止に注意を払いながら、安全面を考慮して保育時間以降は合計35名を定員として運営した。利用者は延べ1585名(年間)となった。

(9) 組織に関する目標を達成するための計画

【IX－1】 定員充足に関する目標を達成するための計画

- ・新学部設置に伴う手続きを予定通り完了し、令和4年4月に心理学部を開設した。
- ・管理栄養士養成課程について、管理栄養士養成課程改革検討委員会による入試改革や、AO入試の導入、指定校数の増加などを行い4年ぶりに入学定員を充足した。

【IX－2】 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

- ・式典について両キャンパスの所掌部署の統一を図ったうえで、令和3年度学位記授与式を大学・短大一体で開催した。
- ・事務組織について両キャンパスを統合した事務組織体制変更の準備を行い、令和4年4月より新体制での運営をスタートした。

(10) 財政に関する目標を達成するための計画

【X－1】 健全財政に関する目標を達成するための計画

- ・資産運用収入増強について、予算額10,000千円の目標を上回る30,000千円の運用収益を確保した。
- ・システムによる勤務時間管理は定着した。全体的として長時間勤務を減少させることができた。
- ・事務職員からの操作案内などにより教員によるWEB旅費の入力が定着してきた。
- ・「不開講及び廃止科目」のガイドラインの実施に基づき不開講科目を決定した。  
前期：須磨／13科目・PI／4科目、後期：須磨／18科目・PI／8科目
- ・大短共通科目を増やすことにより、編入時の認定単位数を明確化し、学園内編入の促進を図った。また、英語科目および情報科目の専任教員によるキャンパス別マネジメント制度の構築をおこなった。

(別記)

I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

神戸女子大学

文学部

日本語日本文学科

- ・遠隔/対面を問わず、前期の「日本語日本文学演習Ⅰ-i」「日本語日本文学演習Ⅱ-i」では発表・討論・文章作成の機会を維持した。
- ・教育実習希望者の「中国文学講読」未修得者が0人となり、レベルの是正が行われた。語学系科目の問題点について議論した。
- ・キャリアサポートセンター作成の「全員面談未実施リスト」に基づいて各ゼミで3年生への注意喚起、4年生へ進路状況アンケート用紙を配付するなどの指導や管理を行った。また、大学院進学希望者全員（2名）が合格した。

英語英米文学科

- ・プレセミナーA, B, C, D、英語学研究、英語圏文学Ⅰ/Ⅱを引き続き開講し、コロナ禍のもと中東の大学とのオンライン交流が行われた。
- ・JALとの産学連携の授業を開講した。多数の受講生が集まり、エアライン関係授業への興味の高さがうかがわれた。

国際教養学科

- ・英語多読図書 Graded readers を 800 冊準備し、水曜日と金曜日を開室日として運用の態勢を整えた。コロナ禍のため、本格稼働は後期 10 月中旬以降となった。2021 年度の貸出実績は延べ利用者数 210 名、貸出冊数 354 冊であった。
- ・コロナ禍の影響で海外留学が出来なかったため、オンラインプログラムに参加した学生もいた。オフ・キャンパス・プログラム（OCP）の準備授業においても、協定校の学生とオンライン学習を行った。
- ・令和 4 年度からの新カリキュラムが承認された。新カリキュラムでは、英語、中国語及び朝鮮語についてもオフ・キャンパス・プログラム（OCP）から帰国した後の 3 回生配当の科目を中心に 1 回生→2 回生→OCP→帰国後の 3 回生プログラムという連続性を重視したものとなる。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらのフィールドワーク自体は徐々に実施が可能となり、GL 技法やゼミ形式の科目で実施され、現在までの国内外でのフィールドワーク実施内容をまとめ、学科で共有した。フィールドワークやリサーチの基となる事前調査研究のための国際教養系の各分野に関する文献を徐々に揃えることが喫緊の課題である。

## 史学科

- ・令和3年度からカリキュラムを改訂し従来は選択必修であった「基礎演習Ⅰ」（1回生後期）、「基礎演習Ⅱ」（2回生前期）をすべて必修化し、開講授業数を倍増させた。これにより4学年の全セメスターで演習の必修化が実現した。
- ・コロナ禍で「自学」が増えており、各教員はmanabaに情報を挙げるなどして、自学時のガイダンスをおこなった。

## 教育学科

- ・他大学の指標を参考にして、子どもの理解及び指導力に関する指標作成に向けてアンケートを行った。1回生122名の回答があった。アンケート結果をもとに子どもの理解及び指導力に関する指標を作成していく。
- ・中学校英語免許課程の充実に向けた体制を確立するために、カリキュラムの改編を行い新たに専任教員を2名採用した。また、学科将来構想案の骨子をまとめることができた。
- ・英語力・英語指導力の向上を図るため、海外留学（海外地域研修）における教育学科独自のプログラムについては、引き続き検討を重ねている。新型コロナの影響で海外地域研修は実施できていないが、PI4大学連携事業・国際交流ツアーの参加を促し、1年生9名（初等教育コース1名、義務教育コース8名）が参加した。また、中学校英語免許志望者の英語力・英語指導力を高めるため、現行のカリキュラムの見直し改編を行った。
- ・タブレット端末を用いて小学校で導入されている授業支援ツールの活用やプログラミング教育の演習を実施し、学生の実践的指導力向上を図った。

## 家政学部

### 家政学科

- ・「(新入生と3回生を中心とした)異学年による学びあいプログラム」に沿って、令和4年度「フィールドワーク」と「家政学を学ぶ」の連携に向けて、授業計画、担当者を決定した。
- ・課題解決型授業として連携先を開拓した。
  - 神戸市公園緑化協会助成金事業に「森林植物園の特徴をいかした遊びワークショップのあり方」が採択された。
  - 兵庫区役所の協力要請を受けて、神戸市立夢野の丘小学校5年生を対象とした「地域安全マップ活動」を実施した。
  - リユース事業会社主催の“RE:CLOTHES CUP 2021”に、靴資材卸業の廃材からアップサイクルした作品や古着のリメイク作品で参加した。
  - 神戸市立須磨離宮公園との共同研究で、廃棄される薔薇の花弁からの染色液作成、薔薇の香りの抽出を行い商品開発の提案を行った。

## 管理栄養士養成課程

- ・令和4年度に予定しているカリキュラム改編作業の中で、管理栄養士論Ⅰ・Ⅱを管理栄養士論に集約し、新しく管理栄養士特別演習Ⅰ・Ⅱを開設した。
- ・卒業論文要旨集を作成し3回生以下の学生が卒業論文に関心をもつように、Zoomやmanabaを通じてレポート提出を促した。manabaの卒業論文発表ポスターへのアクセス数は9896件あった。
- ・1回生から4回生までの成績をリストアップし、学科として成績不振の学生の把握に努め、特に成績不振の4回生に対して面談実施などフォロー体制を強化した

## 健康福祉学部

### 社会福祉学科

- ・新カリキュラムをスタートさせた。3年目(令和5年度)からソーシャルワーク実習が本格化する。実習日数の増加・実習ノート的大幅な改訂等の必要な準備を行っている。
- ・GPAに基づく成績下位者に対して面談を定例化した。成績下位者及び出席不良者について学科会議で協議し、クラス担任を中心に改善対策を立て個別指導を実施した。
- ・国家試験の結果は次の通り。  
社会福祉士/55名受験/合格率80%、精神保健福祉士/6名受験/合格率100% 介護福祉士/18名受験/合格率100%、  
なお上記の内、社会福祉士+精神保健福祉士W受験 6名中6名W合格  
社会福祉士+介護福祉士W受験 18名中14名W合格
- ・Zoom開催した社会福祉研究交流会のシンポジウムにベテラン・中堅・若手の卒業生4名にパネリスト登場してもらった。多くの学生が参加し、特に参加した1年生の振り返りでは「福祉の仕事に就きたいという気持ちが湧きあがった」という声が多数あった。
- ・兵庫県進路選択学生等支援事業については計画通り実施できた。令和3年度の出張講座の実施学校数は兵庫県内の高等学校・専門学校・短期大学29校で目標の20校を上回った。

### 健康スポーツ栄養学科

- ・入試広報部と共同で、ホームページの改定作業を完了した。  
URL：<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/wu/course/f-health/sports.html>
- ・健康運動実践指導者資格取得者25名、保健体育教員免許希望者41名(1回生24名、2回生17名)、スポーツ栄養アドバイザー資格取得希望者27名であった。
- ・修士論文中間発表会・修士論文発表会には、2,3,4回生が出席しやすい日程を設定した。新型コロナの影響は令和4年度もあることを想定して、修士論文中間発表会や修士論文発表会をZoomなどで配信し、学部生が学外からも聴講できる体制で実施した。
- ・研究科委員会と協力して、これまで大学院進学希望者の無かったゼミから大学院進学希望者を出すことができた。

## 看護学部

### 看護学科

- ・教育評価アンケート結果が前年度と同様の傾向にあることを確認し、令和4年度からの新カリキュラムおよび授業改革による評価の目標値を検討した。
- ・看護学科内の必要なデータや資料を確認してすでに作成している資料に追加した。分野別ワーキンググループで課題を明確にした上で、学科会議で共有し関係委員会等で計画的に課題解決に取り組み年度末に評価した。学長室とは年2回話し合いを持ち情報交換した。
- ・前期後期の成績会議に国家試験対策委員長が出席し、学生の成績状況を把握することで、クラス担任との連携が可能となり、学生個々の状況にあった個別支援および集団支援を行うことができた。

## 神戸女子大学大学院

### 文学研究科

- ・本年度は推薦入試の前に進学説明会をおこなった。推薦入試の志願者は日本史学専攻で1名、日本文学専攻で1名であった。
- ・前期課程2年次生は日本史学専攻の2名であり、1名は埋蔵文化財職に内定、1名は嘱託員として博物館学芸員に内定した。

### 家政学研究科

- ・「他研究室、他大学との交流」を業績の客観評価として盛り込むことについて隔月開催の研究活性化のためのワーキンググループで検討した。
- ・現状の「大学院家政学研究科担当教員評価案」の簡易版(家政学研究科案)を作成した。
- ・キャリアサポートセンターとの連携強化について、学生の意見を参考にワーキンググループで検討し、研究科委員会へ報告した。学内で検討しキャリアサポートセンターの大学院生就職活動支援が開始されるようになった。

### 健康栄養学研究科

- ・大学院生の修士論文中間発表会はZoomで開催し、学部学生が気軽に参加しやすい環境を整えた。
- ・令和4年度の入学者は9名であり大学院生を初めて受け入れる研究室が二つ増えた。
- ・新型コロナの影響があり学会参加は難しい状況であったが、日本薬学会関西支部大会(3名)、日本栄養食糧学会近畿支部大会(1名)、日本栄養改善学会(1名)で発表を行った。

#### 看護学研究科

- ・学部3年、4年次のオリエンテーションに大学院進学の説明時間を設定し、またゼミで積極的に声掛けを実施することによって、卒業生（1期生）1名の大学院進学につながった。

#### 神戸女子大学専攻科

##### 学校教育学専攻

- ・少人数制の指導の利点を生かし、入学者へのきめ細かな指導をおこなった。その結果、兵庫県(小学校)教員採用試験で条件付合格した。

#### 神戸女子短期大学

##### 総合生活学科

- ・情報科目の科目名称や科目数について点検し、現状のままで問題ないことを確認した。情報系資格取得の促進については、当面はMOS(マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト)資格取得を促進していく。
- ・学科の各分野について、就職や進学が決定した学生の履修モデルを作成し、学生への進路支援を行なった。
- ・ブライダルプランナー検定3級は試験対策講座を行い、受験者18名全員が合格した。秘書士は30名が資格を取得した。そのうちの成績優秀者1名に協会会長賞が授与された。プレゼンテーション実務士は9名が取得した。サービス接遇検定準1級は11名、2級は13名が合格した。
- ・商工会議所が実施している簿記検定初級は令和4年1月に学内受験を実施し、受験者17名中2名が合格した。

##### 食物栄養学科

- ・港島学園との小大連携食育実習を2月にオンラインで実施した。
- ・第24回卒業生対象の管理栄養士国家試験対策講座をオンラインにて実施した。

##### 幼児教育学科

- ・保育実践力に関する指標開発を完了し、その指標を使用して令和4年1月アンケート調査を実施した。アンケートはmanabaレスポンス機能を用いて、その場で学生に結果をフィードバックできるような方法を用いた。
- ・「領域及び保育内容の指導法」の新科目を文部科学省に申請し、令和4年2月15日全て承認された。
- ・オンライン形式でクッキング講習会と保護者同士の座談会を行った。オンライン形式をとることで、これまで参加が難しかった方も参加することが可能となり、以前よりも盛況に実施することができた。

- ・「社会福祉主事任用資格」と「認定ベビーシッター資格」が取得できるようカリキュラムの改変を行った。認定ベビーシッター協会より正式に認可があり、令和4年度入学生から「認定ベビーシッター資格」が取得できるようになった。

### 3 特記事項

#### (1) 卒業生・修了者数の状況

令和3年度(9月卒業を含む)に所定の課程を修了し、卒業・修了した学生は以下のとおりである。

(単位:名)

区 分	学部・学科等	前 期	後 期	計	
神戸女子大学大学院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	4	1	5
		生活造形学専攻	0	0	0
		(小計)	4	1	5
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	0	0	0
		英文学専攻	0	0	0
		日本史学専攻	2	0	2
		教育学専攻	0	0	0
		(小計)	2	0	2
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻	4	—	4
	看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	6	—	6
	(合計)		16	1	17
神戸女子大学	文学部	日本語日本文学科			78
		英語英米文学科			83
		神戸国際教養学科			73
		史学科			77
		教育学科			182
		(小計)			493
	健康福祉学部	社会福祉学科			74
		健康スポーツ栄養学科			72
		(小計)			146
	家政学部	家政学科			83
		管理栄養士養成課程			159
		(小計)			242
	看護学部	看護学科			80
学校教育学専攻科				1	
(合計)				962	
神戸女子短期大学	総合生活学科			105	
	食物栄養学科			62	
	幼児教育学科			67	
	(合計)			234	

## (2) 国家試験の受験・合格状況

令和3年度における国家試験(9月卒業を含む)の受験・合格状況は、以下のとおりである。

試験区分	年 度	受験者	合格者	合格率	全国平均合格率	全国新卒平均合
管 理 栄 養 士	令和3	158名	149名	94.3%	65.1%	92.9%
	令和2	166名	150名	90.4%	64.2%	91.3%
	令和元	148名	134名	90.5%	61.9%	92.4%
社 会 福 祉 士	令和3	55名	44名	80.0%	31.1%	52.4%
	令和2	61名	35名	57.4%	29.3%	50.7%
	令和元	41名	33名	80.5%	29.3%	56.0%
精 神 保 健 福 祉 士	令和3	6名	6名	100.0%	65.6%	73.3%
	令和2	10名	10名	100.0%	64.2%	71.4%
	令和元	5名	4名	80.0%	62.1%	74.0%
介 護 福 祉 士	令和3	18名	18名	100.0%	72.3%	72.3%
	令和2	18名	18名	100.0%	71.0%	77.8%
	令和元	15名	15名	100.0%	69.9%	80.0%
看 護 師	令和3	80名	79名	98.8%	91.3%	96.5%
	令和2	96名	95名	99.0%	90.4%	95.4%
	令和元	90名	88名	97.8%	89.2%	94.7%
保 健 師	令和3	20名	16名	80.0%	89.3%	93.0%
	令和2	17名	17名	100.0%	94.3%	97.4%
	令和元	18名	18名	100.0%	91.5%	96.3%
助 産 師	令和3	5名	5名	100.0%	99.4%	99.7%
	令和2	5名	4名	80.0%	99.6%	99.7%
	令和元	6名	6名	100.0%	99.4%	99.5%

## (3) 学習支援センター等

【学習支援センター】

(参加延人数)

須磨キャンパス			P I キャンパス		
基礎科目 ミニ講座	理 科	13回(9名)	基礎科目 ミニ講座 (Zoom)	理 科	13回(2名)
	数 学	8回(6名)		数 学	8回(0名)
	国 語	8回(70名)		国 語	8回(0名)
	英 語	13回(195名)		英 語	13回(14名)
基礎科目 個別相談	理 科	週2回(76名)	基礎科目 個別相談	数 学	週1回(5名)
	数 学	週2回(254名)		国 語	週2回(3名)
	国 語	週2回(72名)	基礎科目個別 相談 (Zoom)	理 科	週2回(1名)
	英 語	週1回(69名)		英 語	週1回(20名)
	理 科 (C館1階)	週1回(21名)			

【コモンズ・サポーター主催イベント】

7月14日 シンジョ頭脳クイーン決定戦 開催、12月15日 シンジョ頭脳クイーン決定戦 開催

#### (4) 国際交流事業

ア. 海外からの留学生受け入れ

【国費留学生】日本語日本文学科：ウダヤナ大学 1名

※9月よりオンラインで授業を履修し、11月26日に渡日。

イ. 新型コロナウイルス感染拡大により、学生の海外派遣プログラムの実施を見送った。  
海外の関係大学学生とのオンライン交流、専門家によるオンライン・セミナーや特別講義等を積極的に開催した。

オンライン・プログラム実施状況

【オンライン・グローバルカフェ】

(単位:名)

プログラム名	実施回数	参加者学生数(延べ)		
		大学	短大	合計
ハワイ大学オンライン・インターチェンジ	6	37	1	38
マンチェスター大学オンライン会話喫茶(Conversation Café)	25	339	3	342
チェンマイ大学オンライン・グローバルカフェ	10	60	0	60
静宜大学オンライン・グローバルカフェ	2	8	1	9
日韓交流カフェ (誠信女子大学)	1	14	0	14
ウダヤナ大学留学生 Welcome 交流会	1	13	0	13
ハワイ大学日本語カンパセーション・パートナー	20	161	0	161
看護学部・チェンマイ大学看護学部との学生交流	6	27	0	27
カリフォルニア大学デーヴィス校 日本語で話そう	4	39	0	39
オックスフォード大学日本語学科オンライン交流	1	12	0	12
合計	76	710	5	715

【提携大学オンライン・プログラム】

(単位:名)

プログラム名	参加学生数
ハワイ大学 Global English Online (GEO)	1
フライブルク大学 Virtual German Course	1
高麗大学韓国語センターオンライン短期集中課程	4
静宜大学・オンライン中国語プログラム	2
華南師範大学「中国語ブリッジ(汉语橋)」オンライン学習プログラム	5
合計	13

【グローバル・セミナー】

(単位:名)

セミナー名	参加学生数
ポーランド・アダム・ミツキェヴィチ大学との交流会	51
ポストコロナにおける国際交流（日米友好基金、関西大学）	94
日本で活躍する外国にルーツのある人から学ぶ（シリア及びネパール）	23
バーレーンにおける女性のリーダーシップについて「Pearls of the Two Seas (Bahrain)」 (バーレーンの王立女子大学)	13
無形文化遺産とユネスコの一考察:「甕島のトシドン」を例として(Thinking about Intangible Cultural Heritage and UNESCO: The Example of 'Koshikijima no Toshidon') (カリフォルニア大学デーヴィス校)	46

【その他オンライン・セミナー等】

(単位:名)

セミナー名	参加学生数	学科
第9回国際活動なんでも聞こう！カフェ(ニュージーランド在住日本人看護師)	9	看護
第10回国際活動なんでも聞こう！カフェ(JICA 国際緊急援助隊所属、看護師)	5	
さくらサイエンスプログラム・国際交流セミナー「Medical and Living Support in the Corona Disaster(コロナ禍における医療と生活支援)」	※112	社会福祉

※神戸女子大学及びウダヤナ大学教員及び、病院・施設等の関係者を含む

(5) 図書館

① 須磨、PI 業務一元化の推進

両館の業務の実際、利用者サービスの差異を洗い出し、統一化に向け業務の見直しを行った。コロナ禍においては、消毒の徹底、3密回避等感染拡大防止に徹しつつ、来館できない学生への郵送サービスの実施等、安心・安全に可能な限り利用できる図書館として、両館が迅速に対応できるよう、「教育研究活動指針 with COVID-19」授業レベル別須磨、PI 共通運用マニュアルを策定し、一体的に運営した。

② 須磨、PI 図書館「国立国会図書館／図書館向けデジタル化資料送信サービス」の利用申請

国立国会図書館が提供するデジタル化資料送信サービスの利用申請を行い承認された。申請に伴い、承認要件を満たすための図書館利用規程の改正を行った。

③ 新学部心理学部の資料受入

新学部用書架をPI キャンパス図書館2階に2基増設、新規購入希望図書より重複調査および書店との調整作業を行い、図書の受入、配架作業を行った。また、須磨キャンパス図書館の心理分野資料のうち教員が選書した移動希望資料をPI キャンパスへ配架移動した。

ア 図書館利用サービス

【須磨キャンパス】

開館時間(平日 19:30 まで・土曜日 10:00~17:00)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
開 館 日 数	263 日	188 日	269 日
入 館 者 数	107,793 名	25,118 名	29,581 名
貸 出 冊 数	21,737 冊	9,777 冊	10,778 冊
貸出冊数(1名あたり)	7.7 冊	3.5 冊	4.0 冊
AV コーナー利用者数	1,132 名	0 名	56 名

【P I キャンパス】

開館時間(平日 21:00 まで・土曜日 10:00~17:00)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
開 館 日 数	270 日	189 日	273 日
入 館 者 数	35,109 名	9,389 名	10,112 名
貸 出 冊 数	16,291 冊	6,688 冊	7,742 冊
貸出冊数(1名あたり)	8.8 冊	2.9 冊	4.3 冊
AV コーナー利用者数	19 名	6 名	10 名

注) 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止として「教育研究活動指針 with COVID-19」  
授業レベルに応じ開館時間を短縮。

イ 資料受入状況

【須磨キャンパス】

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
蔵 書 冊 数	288,689 冊	289,933 冊	292,403 冊
図 書 購 入 冊 数	2,315 冊	1,991 冊	1,666 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	2,984 冊	2,455 冊	3,837 冊
視聴覚資料年間受入数	92 件 (61 タイトル)	79 件 (68 タイトル)	38 件 (36 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	2,930 冊	2,930 冊	2,922 冊
雑 誌 年 間 受 入 種 数	219 種	219 種	266 種

注) 除籍図書：令和元年度(824冊)、令和2年度(1,211冊)、令和3年度(1,367冊)

注) 図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

【ポートアイランドキャンパス】

区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
蔵 書 冊 数	短大	120,085 冊	短大	121,958 冊	短大	122,895 冊
	大学	16,244 冊	大学	16,244 冊	大学	17,657 冊
図 書 購 入 冊 数	短大	2,498 冊	短大	1,657 冊	短大	1,570 冊
	大学	1,029 冊	大学	1,002 冊	大学	1,568 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	短大	2,547 冊	短大	1,873 冊	短大	1,588 冊
	大学	1,029 冊	大学	1,002 冊	大学	1,583 冊
視聴覚資料年間受入数	短大	153 件 (65 タイトル)	短大	88 件 (34 タイトル)	短大	35 件 (21 タイトル)
	大学	24 件 (24 タイトル)	大学	23 件 (17 タイトル)	大学	24 件 (19 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	短大	379 種	短大	379 種	短大	379 種
	大学	80 種	大学	80 種	大学	81 種
雑 誌 年 間 受 入 種 数	短大	185 種	短大	187 種	短大	185 種
	大学	65 種	大学	65 種	大学	111 種

注) 除籍図書：令和元年度(0冊) \*財務の除籍処理無し、令和2年度(書籍712冊、VHS41点)、  
令和3年度(書籍802冊、視聴覚721点)

注) 図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

## ウ 地域開放利用状況

### 【須磨キャンパス】

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利 用 者 数	32名	0名	0名
貸 出 冊 数	19冊	0冊	0冊

注) 図書館利用サービスの入館者数、貸出冊数から抽出して再掲

注) 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止として利用中止

## (6) 研究

### ① 研究活動の状況

各教員の研究業績等については、学校教育法施行規則の規定に基づきホームページ上で公開している。また、研究を支援するために外部資金獲得に向けた各種学会、協会及び民間企業等の研究助成に関する情報収集を行い、関係学部・学科等に提供することにより研究活動の促進に努めている。

### ② 科学研究費助成事業の採択

大学においては、応募件数 36 件、新規採択件数 2 件、新規採択率は 6%であった。継続分と併せた採択件数は 50 件 (55,030 千円) であった。今後も応募件数や採択件数の増加を目指し、学内個別相談会の開催、採択者の応募書類の公開など支援の一層の強化を図る。

短期大学においては、基盤研究 C 2 件を申請し、そのうち新規採択は 0 件であった。今後も申請件数の増加を図る取り組みを展開する。

#### 【科学研究費助成事業採択状況 (大学)】

(単位：千円)

研究種目	令和2年度				令和3年度			
	件数	直接経費	間接経	合計	件数	直接経費	間接経費	合計
基盤研究 (A)	0	0	0	0	3	14,255	4,245	18,500
基盤研究 (B)	1	2,500	750	3,250	1	5,100	1,530	6,630
基盤研究 (C)	36	21,600	6,480	28,080	37	19,300	5,790	25,090
挑戦的萌芽研究	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究	12	6,200	1,860	8,060	9	3,700	1,110	4,810
研究活動スタート支援	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	49	30,300	9,090	39,390	51	42,355	12,675	55,030

### ③ 産学連携活動の取り組み

企業等との共同研究や受託研究及び企業等との連携による商品開発等を積極的に推進した。

#### 【企業等との共同研究や受託研究等の状況（大学）】

年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
共同研究・受託研究（継続含む）	7件	7件	7件
商品化・サービスの開始など事業化への貢献	8件	7件	7件
技術相談受け入れ件数	1件	1件	0件
特許の申請状況	1件	0件	0件

#### 【商品開発等（大学）】

	企業名	内 容
1	(株)オイシス	レシピの開発
2	ウオクニ（株）	社員食堂のメニュー開発
3	コープこうべ第3地区活動本部	レシピの開発
4	(株)クボタ阪神工場	食堂メニュー考案
5	神戸市立須磨離宮公園	レシピの開発
6	株式会社ジオナ	化粧品のパッケージ開発及びマーケティング
7	(株)スポルティスト	インターネットサイトでのスポーツ栄養解説

### ④ その他外部資金の採択状況

#### 【大学】

	交付元	研究課題名
1	2021年度 笹川科学研究助成 (公益財団法人日本科学協会)	「昆布の血圧上昇抑制効果における腸内細菌の役割－SHRに対する糞便移植の効果－」
2	2021年度 学術研究奨励金(個人研究奨励金) (公益財団法人三島海雲記念財団)	「消化管ホルモンGLP-1を介した海藻由来βグルカン摂取による血圧上昇抑制効果」

#### 【短大】

	交付元	研究課題名
	該当なし	

## (7) 古典芸能研究センター

### ・古典芸能研究センター開設 20 周年記念展示開催

令和 3 年度に開設 20 周年を迎えた古典芸能研究センターでは、いくつかの記念事業を実施したが、特に、本学とキャンパス・パーク連携を結んでいる神戸市立須磨離宮公園内の和室において、一年を通じて季節ごとに開催した所蔵品を中心とする資料展では、本学のアピールはもちろん、本学の特色である古典芸能研究の成果をわかりやすいかたちで学生や地域に発信する新たな試みとして、成功裏に全会期を終え、離宮公園はもとより地域や関係団体などの多方面から、継続事業としての期待が寄せられる結果となった。

### 春…神戸女子大学古典芸能研究センター・神戸女子大学図書館所蔵

「能狂言絵コレクション」

会期：令和 3 年 4 月 24 日（土）（～5 月 5 日（水）までを予定）

※緊急事態宣言発令に伴う会場の臨時休園のため 4/25 以降中止

協力：独立行政法人日本芸術文化振興会／神戸女子大学・神戸女子短期大学図書館

館入場者数：57 名

### 夏…写真展「沖縄の祭祀 1978-2017」

会期：令和 3 年 7 月 17 日（土）～8 月 1 日（日）

入場者数：415 名

### 秋…「資料でたどる古典芸能の舞台 神戸」

会期：令和 3 年 12 月 11 日（土）～12 月 26 日（日）

協力：生田神社／神戸女子大学・神戸女子短期大学図書館

入場者数：457 名

### 冬…写真展「ひょうごの祭り暮らし」

会期：令和 4 年 2 月 5 日（土）～2 月 20 日（日）

入場者数：875 名

## (8) 学生

令和 2 年度から実施された修学支援制度（給付奨学金及び授業料減免）の諸手続きを行うとともに、コロナ禍により影響を受けた学生への経済的支援として、本学独自の授業料等減免及び政府による学生支援緊急給付金等を実施した。

また、令和 2 年度に制定した障がい学生支援に関する規程およびガイドライン等に基づき、全学的な方針及び基準の統一を図るとともに、支援体制の強化を図った。

さらに、学園独自の奨学金制度について、内容の充実に向け、関係部署と検討を行った。

① 奨学金の採択状況

【日本学生支援機構奨学金】採用種別奨学生数の状況

(大学)

(単位：名)

採用種別等	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	学校教育 学専 攻科	合計	利用者 の割合	学生数 R3.5.1
貸与 第一種（無利子）	173	161	196	193	6	1	730	21.01%	3,475
貸与 第二種（有利子）※	165	223	223	207	0	0	818	23.54%	
貸与奨学金のいずれか	293	304	357	353	6	1	1,314	37.81%	
給付奨学金（旧制度2名含む）	82	66	101	95			344	9.90%	
新制度	第Ⅰ区分	38	36	58	42		174		
	第Ⅱ区分	25	13	28	25		91		
	第Ⅲ区分	14	10	5	13		42		
	休止中	5	7	9	14		35		
旧制度	0	0	1	1			2		
給付・貸与奨学金のいずれか	327	328	386	377	6	1	1,425	41.01%	

(短大)

(単位：名)

採用種別等	1年次	2年次	合計	貸与者 の割合	学生数 R3.5.1	
貸与 第一種（無利子）	33	58	91	22.69%	401	
貸与 第二種（有利子）※	43	67	110	27.43%		
貸与奨学金のいずれか	63	101	164	40.80%		
給付奨学金	26	41	67	16.71%		
新制度	第Ⅰ区分	14	27	41		
	第Ⅱ区分	8	5	13		
	第Ⅲ区分	2	3	5		
	休止中	2	6	8		
旧制度	0	0	0			
給付・貸与奨学金のいずれか	73	116	189	47.13%		

※第二種には、入学時特別増額貸与（一時金貸与者）を含む

【行吉学園奨学制度・神戸女子大学大学院授業料等免除】 (単位：名)

区分		奨励金授与	授業料等免除	大学院 授業料等免除
大 学	1 年 次	—	0	—
	2 年 次	26	0	—
	3 年 次	28	1	—
	4 年 次	32	0	—
大学院	修士・博士前期	—	—	33
	博士後期	—	—	6
小 計		87	86	1
短 大	1 年 次	—	0	—
	2 年 次	10	0	—
小 計		20	10	0
合 計		107	96	1

※奨励金授与制度：前年の成績優秀者を学科から推薦し表彰するもの。奨励金として10万円が授与  
 ※授業料等免除制度：在学中の家計急変による修学継続援助。授業料、教育施設充実費の半額を免除  
 ※大学院授業料等免除制度：授業料の半額又は全額、授業料及び教育施設充実費の半額または全額を免除

【大学・短大関連団体の奨学金】

No.	奨学名称	区分	金額	年次	人数
1	神戸女子大学教育後援会 育英奨学生奨学金	給付（年額）	200,000 円	2～4 年次	1 名
2	青山会（大学同窓会）		後期分授業料等	4 年次	0 名
3	かなめ会（短期大学同窓会）		授業料等の半額	2 年次	0 名

※神戸女子大学同窓会青山会の給付額は、給付者の在籍学科により給付額が異なる。

【新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への支援】

名称	区分	金額	人数		
			大学	短大	大学院
行吉学園新型コロナ禍における経済的支援対策 行吉学園特別授業料等減免制度	授業料 等免除	300,000 円	5 名	2 名	—
「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』 (文部科学省/日本学生支援機構)	給付	100,000 円	341 名	63 名	2 名

② 学生表彰の状況

学生表彰制度に基づく令和元年度の表彰者は下表のとおりである。

【大学】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者（学部生）	10 名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	2 名	—
3	社会貢献活動において社会的に高い評価を受けた者	1 名	—
4	公的機関から表彰された者	—	2 団体
5	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	7 名	6 団体

【短大】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者	3名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	—	—
3	社会貢献活動において社会的に高い評価を受けた者	—	—
4	公的機関から表彰された者	—	—
5	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	—	1団体

③ 学生寮の利用状況

区分	年度	定員	入寮者	残数	入居率
行幸寮	令和3年度	108	105	3	97.2%
	令和2年度	108	108	0	100.0%
	令和元年度	108	106	2	98.1%
天神寮	令和3年度 (留学生除く)	38	36	2	94.7%
	令和2年度	70	58	12	82.9%
	令和元年度	70	59	11	84.3%
計	令和3年度	146	141	5	96.5%
	令和2年度	178	166	12	93.3%
	令和元年度	178	165	13	92.7%

(9) 保健室

新型コロナウイルス感染症の急拡大が収まらない状況により、令和3年4月23日・8月17日兵庫県は緊急事態措置実施区域とされた。本学でも学生の感染者（令和4年3月末累計147名）が確認されたが、学内でのクラスター発生は無かった。

保健室では感染者等への保健指導、一般学生及び教職員への感染予防啓発等に努めた。

- ア 感染者と濃厚接触者に対する健康調査と保健指導
- イ 学生に対する感染情報の提供や感染予防についての健康教育
- ウ 学生の健康相談や不安解消のためのカウンセリングの実施
- エ 保健管理委員会等での情報共有

8月～10月の新型コロナワクチン大学拠点接種において、保健室は事前の準備と全12回のワクチン管理、接種後の健康観察・救護対応にあたった。また、ワクチン接種後の副反応を訴える学生への相談支援も行った。

学生相談室では、コロナ禍の取り組みとして、通常どおり開室したうえ、カウンセリングを基本としつつ、電話またはメールによる相談にも対応した。

【保健室の利用状況（教職員除く）】

(単位:件)

	令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
学生利用	1321	1094	42	1117	762	453	1772	1463	769
	2415			1879			3235		
学校医による健康相談	39			1			0		
嘱託医による精神保健相談	23			24			25		

## 【学生相談室の利用状況】

(単位：名／実数)

		令和元年度			令和2年度			令和3年度		
		大学		短大	大学		短大	大学		短大
		須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
相談実人数		35	15	8	29	9	9	33	18	8
		50			38			51		
相談内容 別実人数	学 業	4	0	0	0	0	0	4	0	0
	進 路	1	1	1	1	0	1	1	0	0
	心 理	43	7	32	9	45	8			
	生 活	2	0	3	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	2	0	1	0			

※令和2年度、3年度は、電話やメール相談を含む実人数である。

## (10) 教職支援

## ① 大学

大学では、コロナ禍2年目ということもあり「オンライン」「対面」を当初から準備し、また学生へもその旨を広報していたため、コロナ感染状況に振り回されることなく教採対策を実施することができた。公立幼保も含め教採対策では、教職支援センターのみの対策ではなく、学科教員とも連携し、Zoom、対面をフル活用し、ICTの実技指導をはじめ図工・音楽・体育実技、模擬授業・模擬保育等の対策を充実させることができた。また、筆記試験対策においては、ライブラリーコモンズとの連携強化を図り、一次試験の合格者について延べ人数で令和元年度94名、令和2年度140名、令和3年度178名と確実に結果を出すことができた。今後、英語や理科についてもライブラリーコモンズとの共同企画を計画していきたい。

## 【大学 教員就職者数の推移（新規卒業者）】

(単位：名)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
幼稚園教諭	8	0	14	3	12	1	7	1	6	0
小学校教諭	43	16	41	13	34	14	46	16	52	12
中学校教諭	3	4	3	10	7	5	5	5	6	6
高等学校教諭	1	5	0	6	2	3	0	4	2	4
特別支援学校	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
栄養教諭	1	2	3	1	0	4	0	4	0	2
養護教諭	—	—	0	1	0	0	0	5	0	0
教員計	56	27	61	35	55	27	58	35	66	24
保育士	54	2	58	1	45	3	56	0	68	4

\*「保育士」就職者に「こども園」就職者も含む。 \*令和4年度の臨時は4月12日現在

【大学 公立学校教員採用試験の合格者数（新規卒業者）】（単位：名 \*合格者数は延べ数）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
幼稚園・保育所等	39	41	32	24	29
小学校	58	59	55	99	102
中学校	3	4	9	6	8
高等学校			2		2
特別支援学校					
栄養教諭	1	5			
教員計	101	109	98	129	141

② 短大

短大では、幼児教育学科2年生全員と個別面談を行い、公立幼保就職促進及び就職支援強化を図った。実習中の学生に対しては、教員協力のもと教職支援センターの利用を促していただき、また、各自治体の説明会（オンライン）への参加を促すなどの支援を実施した。さらに、昨年に引き続き、幼児教育学科のカレッジアワー等を活用して教職ガイダンスを実施、また、全学科対象に昼休みの公立対策勉強会を開催した。公立幼保採用試験の1次合格は14名、最終合格は正規2名、臨時任用2名であった。総合生活学科は臨時的任用1名であった。

【短期大学 教員・保育士就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
中学校	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1
公立保育所	1	1	3	2	2	0	5	1	0	0
私立保育所	29	0	27	0	9	1	27	0	8	0
公立幼稚園	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1
私立幼稚園	3	1	5	0	9	0	7	0	14	1
公立こども園	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1
私立こども園	45	0	47	0	45	0	31	0	33	0
施設	0	0	2	0	2	0	0	0	3	0
児童館、学童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	78	4	84	4	68	3	71	4	60	4

(11) 就職支援

① 大学

大学の令和4年3月31日現在の就職率は95.9%、進路決定率は92.0%である。昨年同時点と比べ就職率が2.0%、進路決定率は1.2%改善した。コロナ禍であったが、早期に活動した学生が増え、内定率を引き上げた。業界研究セミナー、学内企業説明会を両キャンパス合同でオンライン開催した。学生対応についても対面とオンラインを併用して実施し、きめ細かい支援を行った。

② 短大

短大の令和4年3月31日現在の就職率は96.7%、進路決定率は91.5%である。昨年同時点と比べ就職率は1.0%低下、進路決定率は1.3%向上した。

学内企業説明会をオンラインで実施し、学生の進路決定に役立てることができた。  
SPI対策講座をオンライン講座で実施することで、学生の利便性を高めた。

大学、短大ともに、未内定の卒業者に求人情報の提供、相談等の支援を行っている。

※ 「令和4年3月 卒業生の進路状況速報」を巻末に掲載している

## (12) 入試広報

### ① 高校訪問の強化と親密校づくり

高校訪問時に先方の教員と相談し、家庭科室に掲示可能な管理栄養士養成課程の学科紹介掲示物を作成、また、クラス担任が進路指導の際に本学を薦めやすいよう入試ポイントをまとめた資料を作成・配布し情報を発信することにより、高校との関係強化を図った。

### ② 高大接続改革への対応と情報発信

高等学校の進路部長だけでなく、担任にも情報を伝えるため、資料作成・配布を行った。

また、教員対象説明会は例年6月、7月に開催しているが、9月にも開催し、6月、7月に参加できなかった高等学校教員への情報発信を行った。

## 令和4年度入学試験の結果について

(上段:令和4年度・下段:令和3年度)

学 科	全 入 試 状 況											
	募集人員	志願者数	前年比	受験者数	前年比	合格者数	前年比	合格倍率	手続者数	辞退者数	入学者数	定員充足率
			(%)		(%)		(%)					(%)
日 文	60	453	83.1%	419	89.9%	142	95.9%	3.0	68	21	47	78.3%
	60	545		466		148		3.1	65	11	54	90.0%
英 米	60	259	69.8%	232	68.2%	94	91.3%	2.5	38	5	33	55.0%
	60	371		340		103		3.3	61	18	43	71.7%
国 際	60	241	50.1%	213	51.2%	79	61.7%	2.7	24	7	17	28.3%
	60	481		416		128		3.3	59	9	50	83.3%
史 学	60	393	93.3%	351	91.6%	124	88.6%	2.8	57	15	42	70.0%
	60	421		383		140		2.7	65	14	51	85.0%
教 育	165	935	80.2%	846	80.7%	303	103.8%	2.8	159	47	112	67.9%
	165	1,166		1,048		292		3.6	165	42	123	74.5%
家 政	80	427	64.5%	372	62.7%	133	68.6%	2.8	56	6	50	62.5%
	80	662		593		194		3.1	104	13	91	113.8%
管 栄	150	1,206	117.3%	1,120	116.4%	337	113.9%	3.3	188	35	153	102.0%
	150	1,028		962		296		3.3	166	27	139	92.7%
福 祉	80	281	62.0%	260	63.1%	111	76.6%	2.3	67	6	61	76.3%
	80	453		412		145		2.8	76	18	58	72.5%
栄 養	80	412	92.6%	387	100.5%	124	118.1%	3.1	73	9	64	80.0%
	80	445		385		105		3.7	63	10	53	66.3%
看 護	90	2,201	110.4%	2,059	108.8%	219	93.6%	9.4	119	39	80	88.9%
	90	1,993		1,893		234		8.1	123	30	93	103.3%
心 理	80	823		735		181		4.1	102	21	81	101.3%
大学合計	965	7,631	100.9%	6,994	101.4%	1,847	103.5%	3.8	951	211	740	76.7%
	885	7,565		6,898		1,785		3.9	947	192	755	85.3%
大学合計 (心理を除く)	885	6,808	90.0%	6,259	90.7%	1,666	93.3%	3.8	849	190	659	74.5%
	885	7,565		6,898		1,785		3.9	947	192	755	85.3%
(前年との差異)		66		96		62			4	19	-15	
	(心理除く)		-757		-639		-119		-98	-2	-96	
総 生	100	282	82.7%	250	80.4%	108	76.6%	2.3	63	2	61	61.0%
	100	341		311		141		2.2	71	3	68	68.0%
食 栄	60	325	109.4%	295	110.1%	112	115.5%	2.6	43	1	42	70.0%
	60	297		268		97		2.8	54	0	54	90.0%
幼 教	80	242	93.8%	223	94.1%	81	75.7%	2.8	44	2	42	52.5%
	80	258		237		107		2.2	43	0	43	53.8%
短大合計	240	849	94.8%	768	94.1%	301	87.2%	2.6	150	5	145	60.4%
	240	896		816		345		2.4	168	3	165	68.8%
(前年との差異)		-47		-48		-44			-18	2	-20	
総合計	1,205	8,480	100.2%	7,762	100.6%	2,148	100.8%	3.6	1,101	216	885	73.4%
	1,125	8,461		7,714		2,130		3.6	1,115	195	920	81.8%
総合計 (心理を除く)	1,125	7,657	90.5%	7,027	91.1%	1,967	92.3%	3.6	999	195	804	71.5%
	1,125	8,461		7,714		2,130		3.6	1,115	195	920	81.8%
(前年との差異)		19		48		18			-14	21	-35	
	(心理除く)		-804		-687		-163		-116		-116	

・上記志願者数等の人数には第二志望を含む。

### 入 学 学 生 数

設 置	種 別	入 学 者 数 等				入 学 者 数 等 (心理を除く)				
		令和3年度		令和4年度		令和3年度		令和4年度		昨年比
		入学者	合格者数	入学者	入学者	入学者	合格者数	入学者	入学者	
大 学	学 部	755	1,847	740	98.0%	755	1,666	659	87.3%	
	専攻科	1	1	1	-	1	1	1	-	
	大学院 修士・博前	20	26	26	130.0%	20	26	26	130.0%	
	大学院 博 後	7	2	2	28.6%	7	2	2	28.6%	
	編 入 学園内編入	8	18	18	225.0%	8	18	18	225.0%	
	編 入 一般編入	2	9	8	400.0%	2	9	8	400.0%	
	計	793	1,903	795	100.3%	793	1,722	714	90.0%	
短 大	計	165	301	145	87.9%	165	301	145	87.9%	
合 計		958	2,204	940	98.1%	958	2,023	859	89.7%	

### (13) 収益的事業

#### ① オープンカレッジ

大学の知的財産の地域社会への還元を目的とするオープンカレッジは、ミドル・シニア世代を対象としたアカデミックな講座や現代社会においてニーズのある講座を開講しています。しかし前年度からの新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンカレッジの開講は儘ならず、講座内容や定員等を見直し、縮小して開講する。また度重なる緊急事態宣言の発令により開講延期を繰り返す状況のなか、僅かではあるが回復した。受講者数（年間）延べ1,079名、収益は2,736千円（前年比2,518千円増）となる。

#### ② 貸室（教室・体育館等）

英検等試験会場や体育館等の貸出は回復したものの、各学会・研修会等多数の開催中止やリモート開催になり、総収入は3,248千円（前年比1,218千円減）となる。

#### ③ 卒業貸衣裳、自販機手数料等

学内に設置する自販機（一部食堂業者が設置するものを除く）においては授業がリモートで行われ、学生の登校日が激減したことで、大きな影響を受けた。しかし学位記授与式が行われた当年においては、卒業貸衣裳（袴）の紹介手数料はコロナ前に近いものとなった。寄附金とは学生への下宿紹介に伴う家主及び管理会社からのものである。その他含め次のとおりである。

・自販機手数料	547千円	（前年比	80千円増）
・貸衣裳紹介手数料	3,048千円	（前年比	3,048千円増）
・自動車教習所紹介	145千円	（前年比	30千円減）
・寄付金	1,395千円	（前年比	125千円増）

### (14) 幼稚園

令和3年度から「幼保連携型認定こども園」としての運営をスタートした。

#### ① 在園児数

（令和3年5月1日現在）

区 分	クラス	在園児	入園児	合 計
1歳児	1	—	2名	2名
2歳児(満3歳児を含む)	1	—	13名	13名
3歳児	3	16名	31名	47名
4歳児	2	53名	2名	55名
5歳児	2	43名	2名	45名
合 計	9	112名	50名	162名

#### ② 子育て支援

ア 1・2歳児クラスの保育内容及び環境の充実を図る。

イ にこにこクラブ（兵庫県補助対象事業）

未就園児の親子を対象として、毎週月・火・金曜日に実施しているが、令和3年度は、緊急事態宣言等で実施しない期間があり、43回の実施となった。（火曜日は教育実習の一環）

- i 幼稚園の生活に向けて、安定した母子分離を図る。
  - ii 幼児、保護者の交流を深め、情報交換の場とする。
- ウ わくわく幼稚園（兵庫県補助対象事業）  
在宅幼児を小学校教育へ円滑に移行させるため、在園児と同等の専門的な幼児教育を計画的に実施する予定だったが、コロナ対応で実施できなかった。
- エ みんなの幼稚園（神戸市私立幼稚園連盟補助対象事業）  
未就園児が幼稚園教育を体験し交流を深め、安定した家族関係をつくることを目的として実施している。コロナの影響で例年より実施回数は少ない。
- |                |              |
|----------------|--------------|
| 未就園児親子登園日（45回） | 園庭・園舎開放（15回） |
| 教育相談（16回）      | 母親教室（0回）     |
- オ 園庭開放  
第1・第3水曜日（14:00～16:00）、地域の親子を対象に園庭を開放している。
- カ 預かり保育（1号認定児）  
ほぼ毎日、7:30から保育開始まで及び保育終了後から19:00まで実施している。  
延べ利用日数 232日／延べ利用人数 1,585名

### ③ 地域との関わり

園児が地域行事に参加し、地域の方々と触れ合うことにより、様々な人と関わる力を身に付けている。令和3年度はコロナの影響により高倉台ふるさとまつりへの参加、トライやるウィークの中学生受入れはできなかったが、次の事業は交流活動を縮小して実施した。

- ア シルバーカレッジの昔あそび研究会との交流・連携
- イ 高倉台一人暮らしの方とのクリスマス会への参加
- ウ 小・中学校との交流・連携

### ④ 施設の充実

- ア 調理室屋根改修
- イ 調理室洗濯機置き場設置
- ウ 保育室（2Fにじ組）及び職員室エアコン更新
- エ 照明LED化（施設の約半分）更新完了
- オ ユニットプール1台更新
- カ 消火器12本更新
- キ 遊戯室音響システム一式更新
- ク 人工芝更新
- ケ 保育室（0歳児・1歳児用）間仕切り及び扉設置

⑤ 2号・3号認定児定員拡大に伴う設備準備

令和4年4月1日に2・3号認定児の定員を10名から20名に拡大するため、0歳児保育の準備等を行った。

ア 0・1歳児用保育室間仕切り及び扉設置

イ 哺乳瓶殺菌乾燥保管庫、おもちゃ殺菌庫等購入

ウ 補助金 神戸市より500万円

(15) 新型コロナウイルス感染症に対する主な取組み

① 感染者状況（令和4年3月末累計）

令和3年度については、須磨・PI両キャンパスで学生・教職員154名の陽性者が確認された。なお、学内2次感染者・クラスターの発生はなかった。

② 学内方針の決定・周知

令和3年度についても学長を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、以後、感染症の局面展開に応じて学内方針を検討・決定した。

ア 新型コロナウイルス感染症拡大の防止に係る大学の取組方針

令和3年4月22日、5月27日、6月7日、8月18日、9月9日、9月29日、令和4年1月7日、2月22日、3月19日に政府の緊急事態宣言等に合わせて本学の取組方針を決定し、教職員・学生への周知を図った。

イ 遠隔授業実施に係るガイドライン

令和4年2月22日に同ガイドラインを改訂し、令和4年度に向けて教職員への周知を図った。

ウ 学内等における新型コロナウイルス感染症対応マニュアル

令和4年2月22日に同マニュアルを改訂し、令和4年度に向けて教職員・学生への周知を図った。

エ 新型コロナウイルス感染予防のための学生生活ガイドライン

令和4年2月22日に同ガイドラインを改訂し、令和4年度に向けて学生への周知を図った。

オ Campus Life Guide with COVID-19

令和4年2月22日に同マニュアルを改訂し、令和4年度に向けて新入生・在学生への周知を図った。

カ 教育研究活動指針 with COVID-19 2022年度版

令和4年2月22日に同指針を改訂し、令和4年度に向けて教職員への周知を図った。

### ③ 情報提供

ア 学生、教職員に対し Kiss システムを通じて、都度、コロナウイルスに対する対応等に関する最新情報を提供するとともに、ホームページに開設している「新型コロナウイルス感染症対応特設サイト」を通じて本学の取組について広く周知を図った。

イ 各種の感染対策について、休憩時間に学内放送による周知を図った。

### ④ 感染防止対策

ア 非接触型の体温計を両キャンパス入口に設置し、検温当番による検温を実施した。

イ 「キタカエル・システム」により学生の入構時・帰宅時の時刻チェックを行った。

ウ 学内の全ての教室前、食堂、建物入口等に消毒液を設置し、また、授業終了後に教室内の机等の消毒作業を行った。

エ 食堂等、学生が集中する場所のテーブルに飛沫防止用アクリルパネルを設置した。

### ⑤ 大学拠点における新型コロナワクチン接種の実施

本学学生・教職員の健康とより安全・安心な学修環境の確保および地域貢献の一環として三宮キャンパスで新型コロナワクチン職域接種をおこなった。1回目（令和3年8月23日～9月11日）、2回目（令和3年9月20日～10月9日）の計12日間で本学園の全学生・全教職員及び地元住民を対象に実施した。接種人数は合計で1314名であった。

### ⑥ 遠隔授業の実施

国・県等からの要請に先立ち、主体的に遠隔授業について検討し、面接授業と遠隔授業のバランスを取りながら、教育の質を下げることのないよう適切に授業を実施した。

### ⑦ 学生の経済支援

コロナ禍により影響を受けた学生への経済支援として、授業料等減免及び国等による学生支援緊急給付金等を実施した。

ア 本学独自の支援

「特別授業料等減免制度」

家計急変学生に授業料300,000円を免除

イ 国・日本学生支援機構の支援

「学生等の学びを継続するための緊急給付金」

アルバイト収入半減学生に100,000円を給付

⑧ 学生の健康支援・相談

ア 感染者と濃厚接触者に対する健康調査の実施、感染拡大防止のための行動制限等の保健指導

イ 一般学生に対する感染情報の提供や感染防止行動の啓発

ウ 学生の健康相談や不安解消のためのカウンセリングの実施

エ 保健管理委員会との情報共有

### Ⅲ 財務の概要

#### 1. 決算の概要

##### (1) 貸借対照表関係

###### ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
固定資産	27,646,948	27,287,000	27,661,009	28,458,944	28,711,988
流動資産	8,378,966	8,327,132	7,906,726	6,994,230	6,530,537
資産の部合計	36,025,914	35,614,132	35,567,735	35,453,174	35,242,525
固定負債	1,430,761	1,482,695	1,472,268	1,505,848	1,523,196
流動負債	1,368,203	1,270,319	1,132,531	1,056,590	1,089,288
負債の部合計	2,798,964	2,753,014	2,604,799	2,562,438	2,612,484
基本金	45,022,148	45,096,146	45,296,563	45,459,594	45,855,501
繰越収支差額	△ 11,795,198	△ 12,235,028	△ 12,333,627	△ 12,568,858	△ 13,225,460
純資産の部合計	33,226,950	32,861,118	32,962,936	32,890,736	32,630,041
負債及び純資産の部合計	36,025,914	35,614,132	35,567,735	35,453,174	35,242,525

###### イ) 財務比率の経年比較

比率	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
運用資産余裕比率	165.0%	164.0%	171.8%	163.7%	169.3%
流動比率	612.4%	655.5%	698.1%	662.0%	599.5%
総負債比率	7.8%	7.7%	7.3%	7.2%	7.4%
前受金保有率	684.3%	733.9%	801.2%	737.0%	705.5%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
積立率	50.1%	49.6%	50.0%	49.4%	48.7%

##### (2) 資金収支計算書関係

###### ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学生生徒等納付金収入	4,897,923	5,242,549	5,371,462	5,299,372	4,897,137
手数料収入	135,319	127,834	108,832	74,502	77,217
寄付金収入	15,450	10,716	9,749	22,561	4,873
補助金収入	546,697	386,769	495,851	789,897	940,913
資産売却収入	900,000	623,707	420	62,500	125,000
付随事業・収益事業収入	89,412	108,663	109,932	68,410	104,879
受取利息・配当金収入	5,862	4,782	6,667	15,399	29,817
雑収入	304,185	118,650	324,268	428,638	306,643
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,190,028	1,106,701	956,999	891,196	883,081
その他の収入	1,787,196	1,936,277	1,770,868	2,810,774	2,090,151
資金収入調整勘定	△ 1,352,202	△ 1,371,182	△ 1,324,926	△ 1,363,719	△ 1,168,654
前年度繰越支払資金	6,742,257	8,143,516	8,121,577	7,667,919	6,568,362
収入の部合計	15,262,127	16,574,195	15,951,699	16,767,449	14,859,419

支出の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費支出	3,771,982	3,865,071	3,948,984	4,024,590	3,861,593
教育研究経費支出	1,074,886	1,177,881	1,161,089	1,532,409	1,410,367
管理経費支出	511,941	525,492	484,399	488,373	667,641
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	57,941	124,701	59,650	77,512	242,491
設備関係支出	87,820	118,084	155,062	96,128	170,517
資産運用支出	301,614	1,201,614	1,201,614	2,428,821	929,576
その他の支出	1,455,305	1,571,107	1,399,629	1,664,129	1,488,384
資金支出調整勘定	△ 142,878	△ 131,332	△ 126,647	△ 112,875	△ 141,378
翌年度繰越支払資金	8,143,516	8,121,577	7,667,919	6,568,362	6,230,228
支出の部合計	15,262,127	16,574,195	15,951,699	16,767,449	14,859,419

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	5,988,987	6,130,394	6,419,908	6,666,557	6,331,190
教育活動資金支出計	5,358,808	5,568,445	5,594,472	6,045,373	5,939,600
差引	630,179	561,950	825,437	621,183	391,588
調整勘定等	△ 22,303	△ 53,510	△ 178,881	△ 264,705	146,095
教育活動資金収支差額	607,876	508,440	646,556	356,478	537,683
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	300,000	323,707	300,606	316,822	300,472
施設整備等活動資金支出計	445,761	542,785	514,712	473,639	713,008
差引	△ 145,761	△ 219,078	△ 214,106	△ 156,818	△ 412,536
調整勘定等	△ 71	△ 3,421	0	1,889	1,287
施設整備等活動資金収支差額	△ 145,832	△ 222,499	△ 214,106	△ 154,929	△ 411,249
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	462,044	285,941	432,450	201,549	126,434
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,273,638	2,038,767	1,296,381	2,370,448	1,538,248
その他の活動資金支出計	1,334,421	2,346,648	2,182,487	3,671,556	2,002,816
差引	939,216	△ 307,881	△ 886,106	△ 1,301,107	△ 464,568
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	939,216	△ 307,881	△ 886,106	△ 1,301,107	△ 464,568
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	1,401,259	△ 21,940	△ 453,657	△ 1,099,557	△ 338,134
前年度繰越支払資金	6,742,257	8,143,516	8,121,576	7,667,919	6,568,362
翌年度繰越支払資金	8,143,516	8,121,576	7,667,919	6,568,362	6,230,228

ウ) 財務比率の経年比較

比率	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動資金収支差額比率	10.1%	8.3%	10.1%	5.3%	8.5%

## (3) 事業活動収支計算書関係

## ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	4,897,923	5,242,549	5,371,462	5,299,371	4,897,137
	手数料	135,319	127,833	108,832	74,502	77,216
	寄付金	15,450	10,716	9,960	22,561	4,873
	経常費等補助金	546,697	386,769	495,665	773,075	940,441
	付随事業収入	89,412	108,663	109,932	68,409	104,879
	雑収入	315,118	253,863	324,647	435,144	306,643
	教育活動収入計	5,999,919	6,130,393	6,420,498	6,673,062	6,331,189
	事業活動支出の部					
	人件費	3,820,435	3,917,006	3,938,936	4,064,676	3,878,941
	教育研究経費	1,744,880	1,850,366	1,835,522	2,162,113	1,998,167
	管理経費	573,603	590,387	548,085	549,617	732,294
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	6,138,918	6,357,759	6,322,543	6,776,406	6,609,402
教育活動収支差額	△ 138,999	△ 227,366	97,955	△ 103,344	△ 278,213	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	5,862	4,782	6,667	15,399	30,153
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	5,862	4,782	6,667	15,399	30,153
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	5,862	4,782	6,667	15,399	30,153	
経常収支差額	△ 133,137	△ 222,584	104,622	△ 87,945	△ 248,060	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	1,350	3,908	1,733	19,802	3,563
	特別収入計	1,350	3,908	1,733	19,802	3,563
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	4,179	147,156	4,538	4,057	16,198
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	4,179	147,156	4,538	4,057	16,198
特別収支差額	△ 2,829	△ 143,248	△ 2,805	15,745	△ 12,635	
基本金組入前当年度収支差額	△ 135,966	△ 365,832	101,817	△ 72,200	△ 260,695	
基本金組入額合計	△ 138,699	△ 73,999	△ 200,417	△ 163,031	△ 395,907	
当年度収支差額	△ 274,665	△ 439,831	△ 98,600	△ 235,231	△ 656,602	
前年度繰越収支差額	△ 11,520,533	△ 11,795,198	△ 12,235,028	△ 12,333,627	△ 12,568,858	
基本金取崩額	0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 11,795,198	△ 12,235,029	△ 12,333,627	△ 12,568,858	△ 13,225,460	
(参考)						
事業活動収入計	6,007,131	6,139,083	6,428,898	6,708,263	6,364,905	
事業活動支出計	6,143,097	6,504,915	6,327,081	6,780,463	6,625,600	

イ) 財務比率の経年比較

比率	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費比率	63.6%	63.8%	61.3%	60.8%	61.0%
教育研究経費比率	29.1%	30.2%	28.6%	32.3%	31.4%
管理経費比率	9.6%	9.6%	8.5%	8.2%	11.5%
事業活動収支差額比率	△2.3%	△6.0%	1.6%	△1.1%	△4.1%
学生生徒等納付金比率	81.6%	85.5%	83.6%	79.2%	77.0%
経常収支差額比率	△2.2%	△3.6%	1.6%	△1.3%	△3.9%

2. その他

(1) 有価証券の状況

(単位：千円)

種 類	当年度（令和4年3月31日）		
	貸借対照計上額	時価	差額
債 券	1,799,077	1,794,239	△ 4,838
株 式	—	—	—
投資信託	—	—	—
貸付信託	312,500	312,813	313
そ の 他	—	—	—
合 計	2,111,577	2,107,052	△ 4,525
時価のない有価証券	1,438		
有価証券合計	2,113,015		

(2) 借入金の状況 該当なし

(3) 学校債の状況 該当なし

(4) 寄付金の状況

(単位：千円)

科目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
寄付金収入	15,450	10,716	9,749	22,561	4,873
特別寄付金収入	9,700	6,558	6,769	7,138	1,933
教育研究特別寄付金収入	2,000	2,858	2,279	2,242	988
施設設備寄付金収入	0	0	0	0	0
奨学研究助成金収入	3,200	500	600	600	0
公募研究助成金収入	4,500	3,200	3,890	4,296	945
一般寄付金収入	5,750	4,158	2,980	15,423	2,940
一般寄付金収入（保証人）	4,260	3,140	1,900	580	470
個人寄付金収入（その他）	1,070	610	730	10,493	1,665
法人寄付金収入（その他）	420	408	350	4,350	805

(5) 補助金の状況

(単位：千円)

科目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
補助金収入	546,697	386,769	495,851	789,897	940,914
国庫補助金収入	497,879	335,836	440,851	722,985	726,466
国庫補助金収入(教)	497,879	335,836	440,851	486,010	499,793
国庫補助金収入(施)	0	0	0	12,130	0
授業料等減免費交付金	0	0	0	224,845	226,673
地方公共団体補助金収入	48,518	50,932	54,001	66,912	35,165
地公体補助金収入(教)	48,518	50,932	53,815	62,220	34,693
地公体補助金収入(施)	0	0	186	4,692	472
学術研究振興資金収入	0	0	0	0	179,282
学術研究振興資金収入	300	0	1,000	0	0

(6) 収益事業の状況 該当なし

(7) 関連当事者との取引の状況

ア) 関連当事者 該当なし

イ) 出資会社 該当なし

(8) 学校法人間財務取引 該当なし

### 3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和3年度における事業活動収入は、学生数前年比「△291名」による学生生徒等納付金「402百万円」の減少、幼稚園の認定こども園化による経常費等補助金「168百万円」の増加、雑収入「129百万円(含む退職金財団交付金『131百万円』)」の減少により、前年比「△343百万円」となった。

事業活動支出は、人件費が前年比「△186百万円」、教育研究経費が前年比「△164百万円」、管理経費が前年比「+182百万円」となったことにより、「155百万円」の減少となった。これは、退職給与引当金繰入額「159百万円」の減少、前年度学生への支援奨学金「207百万円」の減少、心理学部設置に伴う費用「187百万円」が大きな要因である。

以上により、基本金組入前当年度収支差額は「△260百万円」となり、前年比「△188百万円」の赤字基調となった。基本金組入額は「△396百万円」、これにより当年度収支差額は「△656百万円」の支出超過となり、前年比では「△421百万円」となった。

令和4年度の学生募集は、大学が入学定員「965名(心理学部設置80名含む)」に対して入学者数「740名」、短期大学が入学定員「240名」に対して入学者数「145名」となり、全体の学生数は前年比「△338名」となった。

学生数の減少が続く中、新たに立ち上げた「志願者回復プロジェクト」により学生数の回復を図りたい。





「自立心・対話力・創造性」  
を培う教育を目指しています

## 学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp>

Tel :078-303-4712

Fax:078-303-4713